

平成 2 1 年度

大分市美術館

年 報

目次

1. 運営方針	4
2. 沿革	5
3. 展覧会事業	6
1. 特別展	6
2. 常設展	35
3. サマー企画	48
4. 教育普及事業	52
1. ハイビジョンシステム	52
2. ハイビジョンシアター	54
3. 芸術・文化に親しむ講座	55
4. 実技講座	55
5. アートカレッジ	55
6. 美術館で音楽会	56
7. 教職員講座	56
8. 子ども講座	57
9. ファミリーアートクラブ	58
10. 出前鑑賞教室	59
11. 職場体験	59
12. ボランティア研修講座	60
13. ボランティア活動	60
14. お出かけ美術館	61
15. 博物館実習	61
16. 各種刊行物	62
5. 資料収集事業	63
1. 美術品等収集事業	64
2. 平成21年度作品貸出状況	66
3. 所蔵図書	67
4. 所蔵映像資料	67
6. 管理運営	68
1. 職員数	68
2. 事務分掌	68
3. 利用状況	69
4. 建築設備概要	70
5. フロア別面積	72
6. 決算	73

7.	利用案内	73
8.	条例	73
9.	条例施行規則	73
7.	アートプラザ	74
1.	運営方針	74
2.	施設概要	74
3.	業務内容	74
4.	現代美術作品 大分市美術館所蔵 常設展示	76
5.	利用案内	77
6.	利用状況	77
7.	アートプラザ条例	77
8.	アートプラザ条例施行規則	77

1. 運営方針

大分市美術館は、緑豊かな上野丘公園内に位置し、「たのしんで・みて・まなぶ」美術館として、年間を通じて所蔵の美術品が鑑賞できる常設展やさまざまな優れた分野の美術を紹介する特別展の開催、各種講座・講演会の開催など、子どもから大人までだれもが幅広く楽しめる生涯学習施設としての美術館運営をめざしている。

そのために、豊後南画や大分市にゆかりのある作家の優れた作品などの収集保存活動をはじめとし、調査研究活動、展示活動、教育普及活動、広報活動という5部門の活動を通じて、芸術文化の振興につとめている。

また、特色ある地域の美術文化情報を広く発信し、開かれた美術館として市民との協働による運営を推進している。

2. 沿革

昭和 60(1985)年		展示用美術作品の購入開始
昭和 62(1987)年	6 月	市長、6 月議会において、美術館建設を表明 教育委員会社会教育課を所管事務担当とする
昭和 63(1988)年	8 月	大分市美術館基本構想委員会設置(委員 15 名、会長高山辰雄画伯)
平成元(1989)年	3 月	ハイビジョン・シティ構想(郵政省)のモデル都市指定を受ける
	9 月	大分市美術館基本構想委員会が大分市美術館基本構想を答申
平成 2(1990)年	2 月	大分市美術館建設委員会設置(委員 17 名、会長高山辰雄画伯)
	4 月	教育委員会庶務課に美術館建設事務従事を置く
	5 月	美術館建設予定地を上野丘陵地に決定 (第 2 回大分市美術館建設委員会)
	6 月	(仮称)大分市美術館美術作品収集委員会設置要綱制定(委員 9 名)
平成 3(1991)年	4 月	設計者を内井昭蔵建築設計事務所と決定 (指名 5 社のプロポーザル方式、第 4 回大分市美術館建設委員会)
	9 月	上野丘公園が「平成記念子どものもり公園(建設省)」に指定される
	10 月	市長、「美術館建設計画の見直し」を発表
平成 5(1993)年	4 月	教育委員会文化振興課を所管事務担当とする
平成 7(1995)年	9 月	美術館基本・実施設計委託(内井昭蔵建築設計事務所)
	12 月	美術館基本設計終了
平成 8(1996)年	4 月	教育委員会に美術館建設準備室を設置
	5 月	美術館実施設計完了
	9 月	美術館敷地造成工事着工
	12 月	美術館敷地造成工事完成 美術館新築工事着工
平成 10(1998)年	6 月	美術館本体工事完成
	9 月	美術館外構工事完成「大分市美術館条例」制定
	12 月	大分市美術館発足
平成 11(1999)年	2 月	17 日、開館
平成 12(2000)年	11 月	第 41 回建築業協会賞受賞
平成 14(2002)年	2 月	観覧者が 50 万人を超える
平成 16(2004)年	7 月	16 日、皇太子殿下行啓
平成 18(2006)年	4 月	機構改革により二課体制を一課とし、美術振興課設置
平成 19(2007)年	8 月	観覧者が 100 万人を超える
平成 20(2008)年	11 月	秋篠宮殿下お成り
平成 21(2009)年	2 月	開館 10 周年記念式典挙行

3. 展覧会事業

3. 1 特別展

3. 1. 1 人間とは一探求する版画家 浜田知明

概要 戦後本格的に版画制作を開始した浜田知明（1917年 熊本県生）は、1951年、戦争という究極の暴力行為が生み出す凄惨な情景、敵味方を問わず人を虫けらのように扱う非人道的な体験を描いた「初年兵哀歌」シリーズでその時代性を背景に注目を集め、さらに、1956年には第4回ルガノ国際版画展で「次賞」を受賞し、国際的にも高い評価を得た。

本展では、人間心理の暗闇や社会に対する疎外感、また、現代社会の不条理性などを時には鋭くえぐるように、時には優しくユーモラスに描き、「人間の本质とは何か」を探究してきた浜田の代表作100点を紹介した。

会 期 平成21年4月24日（金）～5月17日（日） 公開日数22日

主 催 大分市美術館

後 援 大分合同新聞社、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分
OAB大分朝日放送、エフエム大分、OCT大分ケーブルテレコム

出品点数 版画 100点

観覧者数 2,522人

観覧料 一般300（250）円／高大生200（150）円、中学生以下無料
※（ ）内は20名以上の団体料金

展示解説 ■美術館職員による展示解説（要観覧料）

日 時 会期中毎週水曜日 午後2時～ 50分程度

場 所 企画展示室

参加者 66人

印刷物 ・ポスターB2版、チラシA4版

関連記事 「人間とは一探求する版画家 浜田知明」『読売新聞』4月17日
「人間とは一探求する版画家 浜田知明」『毎日新聞』4月24日
「人間とは一探求する版画家 浜田知明」『大分合同新聞』5月7日

（担当 長田）

目録

No	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・技法
1	聖馬	1950	21.0×14.8	エッチング
2	marikoに	1950	18.9×8.2	エッチング
3	幼なき刳剝	1951	18.9×17.7	エッチング
4	初年兵哀歌(銃架のかげ)	1951	20.0×17.5	エッチング、アクアチント
5	初年兵哀歌(便所の伝説)	1951	24.1×8.6	メゾチント
6	初年兵哀歌(戦いのあと)	1951	17.5×9.0	メゾチント
7	初年兵哀歌(歩哨)	1951	30.4×21.5	エッチング、アクアチント
8	初年兵哀歌(歩哨)	1951	23.8×12.8	エッチング、アクアチント
9	初年兵哀歌(ぐにゃぐにゃとした太陽がのぼる)	1952	8.9×17.6	エッチング
10	初年兵哀歌	1952	22.5×14.9	エッチング、アクアチント
11	頭	1952	17.1×10.9	エッチング、アクアチント
12	初年兵哀歌	1953	21.5×26.5	エッチング
13	初年兵哀歌(山を行く砲兵隊)	1953	24.2×17.1	エッチング、アクアチント
14	初年兵哀歌(陣地)	1953	20.0×15.5	エッチング、アクアチント
15	風景	1953	36.2×29.8	エッチング
16	風景	1954	24.8×36.2	エッチング、アクアチント
17	假標	1954	19.5×12.0	エッチング、アクアチント
18	絞首台	1954	23.1×13.0	エッチング、アクアチント
19	初年兵哀歌(歩哨)	1954	23.1×16.2	エッチング、アクアチント
20	初年兵哀歌-風景(一隅)	1954	18.7×24.0	エッチング、アクアチント
21	初年兵哀歌(廟)	1954	16.2×24.8	エッチング、アクアチント
22	刑場(A)	1954	24.7×19.0	エッチング、アクアチント
23	刑場(B)	1954	22.8×11.4	エッチング、アクアチント
24	黄土地帯(B)	1954	11.8×19.6	エッチング、アクアチント
25	よみがえる亡霊	1956	30.8×21.6	エッチング、アクアチント
26	副校長D氏像	1956	21.6×14.6	エッチング、アクアチント
27	人	1956	28.8×16.3	エッチング、アクアチント
28	一隅	1956	22.7×15.5	エッチング、アクアチント
29	疑惑	1957	27.5×17.5	エッチング、アクアチント
30	狂った男	1957	28.8×19.7	エッチング、アクアチント
31	愛の歌	1957	20.0×19.5	エッチング
32	飛翔	1958	36.5×45.1	エッチング、アクアチント
33	地方名士	1958	36.1×13.0	エッチング、アクアチント
34	群盲	1960	29.1×29.5	エッチング、アクアチント
35	女	1960	29.7×30.0	エッチング、アクアチント
36	怠惰	1961	34.2×26.0	エッチング
37	風	1961	36.3×23.6	エッチング、アクアチント
38	噂	1961	36.2×23.6	エッチング、アクアチント
39	狂った男	1962	36.1×29.2	エッチング、アクアチント
40	詩人	1963	26.1×21.1	エッチング、アクアチント
41	現代の長城	1964	36.4×44.8	エッチング、アクアチント
42	風景	1967	36.3×46.1	エッチング
43	ロンドン塔 (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」)	1969	18.5×21.2	エッチング、アクアチント
44	騎士と鍵と女 (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」)	1969	17.8×18.4	エッチング
45	地下牢 (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」)	1969	24.9×17.8	エッチング、アクアチント
46	鏡 (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」)	1970	25.5×14.5	エッチング、アクアチント
47	騎士達は静かに眠る (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」)	1970	18.7×21.5	エッチング
48	ドーバー海峡 (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」)	1970	27.3×12.9	エッチング、アクアチント
49	パリの壁から (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」)	1970	16.8×27.0	エッチング、アクアチント
50	フランドル伯城 (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」)	1970	23.8×17.9	エッチング、アクアチント

No	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法・技法
51	ウィーン (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」)	1970	13.9×27.4	エッチング、アクアチント
52	グランプラス (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」)	1971	24.3×16.9	エッチング、アクアチント
53	晩年 (A)	1972	22.8×15.6	エッチング
54	晩年 (B)	1972	21.6×15.5	エッチング
55	アレレ…	1974	32.0×19.1	エッチング、アクアチント
56	教授会	1974	26.6×36.3	エッチング、アクアチント
57	家族 (大)	1974	29.5×23.5	エッチング、アクアチント
58	いらいら (A)	1974	23.6×24.7	エッチング、アクアチント
59	孤独なやつ(銅版画集「見える人」)	1974	20.5×21.6	エッチング
60	顔 (銅版画集「見える人」)	1874	21.1×15.4	エッチング、アクアチント
61	情報過多的人間 (銅版画集「見える人」)	1975	22.4×14.5	エッチング
62	男 (銅版画集「見える人」)	1975	25.9×14.9	エッチング
63	顔 (銅版画集「見える人」)	1975	22.5×17.9	エッチング
64	顔 (銅版画集「見える人」)	1975	22.6×16.9	エッチング
65	顔 (銅版画集「見える人」)	1975	24.4×21.6	エッチング
66	顔 (銅版画集「見える人」)	1975	19.2×19.3	エッチング
67	せかせか	1975	26.8×28.4	エッチング、アクアチント
68	いらいら (B)	1975	36.2×28.0	エッチング、アクアチント
69	顔	1975	18.2×20.1	エッチング、手彩色
70	ややノイローゼ気味 (銅版画集「曇後晴」)	1975	22.4×14.5	エッチング、アクアチント
71	叫び (銅版画集「曇後晴」)	1975	21.5×21.6	エッチング、アクアチント
72	顔 (銅版画集「曇後晴」)	1976	22.0×15.2	エッチング
73	お先真っ暗 (銅版画集「曇後晴」)	1976	23.4×12.1	エッチング、アクアチント
74	心情不安定 (銅版画集「曇後晴」)	1976	21.8×16.1	エッチング、アクアチント
75	気にしない 気にしない (銅版画集「曇後晴」)	1976	28.6×14.6	エッチング、アクアチント
76	何とかなるさ (銅版画集「曇後晴」)	1976	21.6×16.5	エッチング、アクアチント
77	かげ (銅版画集「曇後晴」)	1977	21.7×15.3	エッチング、アクアチント
78	浮上 (銅版画集「曇後晴」)	1977	22.2×18.1	エッチング、アクアチント
79	家族 (銅版画集「曇後晴」)	1977	19.4×16.0	エッチング、アクアチント
80	月夜	1977	25.6×27.0	エッチング、アクアチント
81	風化する街 (A)	1977	31.8×23.9	エッチング、アクアチント
82	風化する街 (B)	1978	23.0×30.1	エッチング、アクアチント
83	だめな奴	1979	24.8×16.8	エッチング
84	取引	1979	20.6×26.8	エッチング
85	ポス	1980	27.2×19.5	エッチング
86	教授達	1981	18.3×25.6	エッチング、アクアチント
87	行きどまり	1981	19.0×21.5	エッチング、アクアチント
88	ある日…。	1982	21.9×15.9	エッチング
89	小犬のいる風景	1984	20.8×16.7	エッチング、アクアチント
90	怯える人々	1985	24.5×20.7	エッチング、アクアチント
91	むし暑い夜	1985	23.6×15.9	エッチング、アクアチント
92	月夜	1987	26.9×16.2	エッチング、アクアチント
93	夜	1988	25.7×22.0	エッチング、アクアチント
94	ボタン (A)	1988	32.5×35.5	エッチング、アクアチント
95	H氏像	1989	33.0×24.4	エッチング
96	いらいら (C)	1992	24.0×16.4	エッチング、アクアチント
97	窓から一何もしてないよ (A)	1994	24.4×19.5	エッチング、アクアチント
98	窓から一何もしてないよ (B)	1994	24.4×19.5	エッチング、アクアチント
99	窓から一何もしてないよ (C)	1994	24.4×19.5	エッチング、アクアチント
100	窓から一白い手袋	1996	33.5×22.5	エッチング、アクアチント

3. 1. 2. 郷土在住作家展Ⅲ 飯尾寿夫展

概要 飯尾寿夫は、1928（昭和 3）年に竹田市に生まれ、熊本工業専門学校（現：熊本大学工学部建築工学科）を卒業後、県内の中・高等学校で教鞭をとる一方で、本格的に油彩画の制作を始めた。1958 年の第 22 回大分県美術展に《或る風景》を出品し、大分県美術協会奨励賞を受賞し、同展が改組された以降も、1968 年の第 4 回大分県美術展に《悼》、翌年の第 5 回展に《額縁の向うの二つの像》を出品し、連続して大分県美術協会賞を受賞した。1970 年の第 6 回展では、大分県美術協会優賞、1986 年の第 22 回大分県美術展で OG 賞を受賞。

また、1967 年以来、二紀会を中心に活躍を続け、1997（平成 9）年の第 51 回二紀展で同人賞を受賞、1998 年の第 52 回二紀展に、《アトリエ寓話（E）》を出品し、会員に推挙された。

本展では、初期の「蝶」、「夏草」、中期の「石」、近年の「耳」などのシリーズの中から、代表作及び関連資料を展示し、洋画家飯尾寿夫の活動の全容を紹介した。

会 期 平成 21 年 5 月 20 日（水）～6 月 10 日（水） 公開日数 20 日間

主 催 大分市美術館

後 援 大分合同新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、エフエム大分、OCT 大分ケーブルテレコム

出品点数 油彩画 60 点、素描 32 点、版画 24 点及び関連資料

観覧者数 1,845 人

観 覧 料 一般 500（400）円／高大生 300（250）円、中学生以下無料
※（ ）内は 20 人以上の団体料金

作家トーク 5 月 30 日（土） 午後 2 時～3 時 30 分 ハイビジョンホール 98 人

展示解説 ■美術館職員による展示解説（要観覧料）

日 時 会期中毎週水曜日 午後 2 時～

場 所 企画展示室

参加者 41 人

印 刷 物 ・ポスター B2 判・チラシ A4 判

関連記事 「画業振り返る 116 点 飯尾寿夫展始まる」『大分合同新聞』5 月 20 日
「絵への思い解説 飯尾寿夫さん作家トーク」『大分合同新聞』6 月 1 日
「飯尾寿夫展 作風の変遷たどる 116 点」『大分合同新聞』6 月 4 日

（担当 大神）

目録

No.	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・素材	所蔵・出品歴・他
1	或る風景	1958	90.9 × 116.7	油彩・キャンバス	第22回大分県美術展/大分県美術協会奨励賞
2	悼	1968	145.5 × 112.1	油彩・キャンバス	第4回大分県美術展/大分県美術協会賞
3	予兆	1970	130.3 × 162.1	油彩・キャンバス	第6回大分県美術展/大分県美術協会優賞
4	弔辞	1972	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	現代九州沖縄洋画展
5	植物Ⅱ	1972	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	第4回7人の会展/第8回大分県美術展大分県美術協会優賞/大分市美術館蔵
6	蝶と犬	1974	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	第9回大分県美術展/大分県美術協会賞/第28回二紀展
7	草原にてⅥ	1977	193.9 × 130.3	油彩・キャンバス	第13回大分県美術展/大分県美術協会賞
8	誘(1)	1978	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	個展
9	貝と夏草	1978	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	
10	窓	1980	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第34回二紀展
11	蝶と単車	1980	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	第16回大分県美術展/大分合同新聞社蔵
12	海辺のセレモニー	1981	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第35回記念二紀展
13	夏草と女高生Ⅰ	1982	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第36回二紀展/荻町総合福祉健康センター蔵
14	夏草と女高生Ⅱ	1982	112.1 × 193.9	油彩・キャンバス	
15	道(2)	1982	145.5 × 112.1	油彩・キャンバス	個展
16	地譜	1986	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第40回記念二紀展
17	聖域(1)	1984	162.1 × 193.9	油彩・キャンバス	宇曾山荘蔵
18	聖域(2)	1985	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	第22回大分県美術展/OG賞/大分県立芸術会館蔵
19	聖域(3)	1986	145.5 × 112.1	油彩・キャンバス	個展
20	降臨説	1986	162.1 × 193.9	油彩・キャンバス	
21	大安	1986	130.3 × 162.1	油彩・キャンバス	個展
22	石原と犬	1989	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第43回二紀展
23	聖域(4)	1990	145.5 × 112.1	油彩・キャンバス	第44回二紀展
24	木箱と蝶	1992	193.9 × 130.3	油彩・キャンバス	
25	木箱	1992	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	
26-57	七瀬川畔鉛筆スケッチ 32点	2007-2009	各12.5 × 17.8	紙・鉛筆、鉄筆	
58-81	年頭の初仕事(私の 十二支)24点	1970頃- 2000頃	各15.0 × 20.0	木版画、紙版画、鉛筆等	
82	誘	1978年頃	22.7 × 15.8	油彩・キャンバス	
83	ビー玉	1986年頃	22.7 × 15.8	アクリル・キャンバス	
84	降臨説	2009	22.7 × 15.8	油彩・キャンバス	
85	ジャンボとケンケン	1986年頃	22.7 × 15.8	油彩・キャンバス	個人蔵
86	道	1986年頃	33.3 × 24.2	油彩・キャンバス	
87	降臨説	1986年頃	22.7 × 15.8	油彩・キャンバス	
88	降臨説	2009	22.7 × 15.8	油彩・キャンバス	
89	インド追想	1987年頃	53.0 × 33.3	油彩・キャンバス	
90	会話	1978年/ 2009年	72.7 × 60.6	油彩・キャンバス	
91	蟻地獄	1987年頃	72.7 × 72.7	油彩・キャンバス	個人蔵
92	耳	2008	116.7 × 91.0	油彩・キャンバス	
93	よもつひら坂(1)	1993	162.1 × 193.9	油彩・キャンバス	

No.	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・素材	所蔵・出品歴・他
94	よもつひら坂(2)	1994	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	
95	宵祭	1992	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第46回二紀展
96	ホール(孵化)	1992	193.9 × 193.9	油彩・キャンバス	
97	ホール(走る人)	1994	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第48回二紀展
98	サンドウオッチ	1995	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第49回二紀展/大分工業高等学校蔵
99	午後2時のアトリエ	1995	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	個展
100	アトリエ寓話 I	1997	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第51回二紀展/同人賞
101	青い椅子	1996	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第50回記念二紀展
102	俺はドラゴン(1)	1998	162.1 × 227.3	油彩・キャンバス	第52回二紀展/大分市美術館蔵
103	俺はドラゴン(2)	1999	162.1 × 227.3	油彩・キャンバス	第53回二紀展
104	俺はドラゴン(3)	1998	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	個展
105	俺はドラゴン(4)	1998	130.3 × 130.3	油彩・キャンバス	
106	早朝の知らせ	2001	181.8 × 227.3	油彩・キャンバス	第55回記念二紀展
107	9・11	2002	181.8 × 227.3	油彩・キャンバス	第56回二紀展
108	木霊	2002	162.1 × 162.1	油彩・キャンバス	
109	木霊	2002	130.3 × 130.3	油彩・キャンバス	2002年春季県美展/大分市美術館蔵
110	雲の上の耳と椅子(1)	2004	227.3 × 181.8	油彩・キャンバス	第58回二紀展
111	闖入	2003	130.3 × 130.3	油彩・キャンバス	
112	闖入	2003	181.8 × 227.3	油彩・キャンバス	第57回二紀展
113	耳と椅子	2005	227.3 × 162.1	油彩・キャンバス	第59回二紀展
114	雲の上の耳と椅子(2)	2006	227.3 × 181.8	油彩・キャンバス	第60回記念二紀展/宮永賞
115	耳	2007	227.3 × 181.8	油彩・キャンバス	第61回二紀展
116	雲の上の耳	2008	227.3 × 181.8	油彩・キャンバス	第62回二紀展

3. 1. 3. 郷土在住作家展Ⅲ 脇坂秀樹展

概要 脇坂秀樹は、1930（昭和5）年に西国東郡大田村に生まれ、1954年大分大学学芸学部を卒業後、県内の中・高等学校で教鞭をとる一方、本格的に油彩画の制作に取り組み、光風会展、後、東光会展を中心に活躍を続け、1959年の第25回東光会展に《灼土の丘》を出品し入賞した。翌年には、《家族》を出品し、東光会会友となり、1964年には、東光会会員に推挙された。

また、2001（平成13）年から2004年まで、第7代大分県美術協会会長を務め、現在は大分県美術協会名誉会員として、大分県美術の振興に尽力している。

本展では、初期の「人物」、中期の「街」、近年の「風景」などのシリーズの中から、代表作及び関連資料を展示し、洋画家脇坂秀樹の活動の全容を紹介した。

会期 平成21年6月13日（土）～7月5日（日） 公開日数 20日間

主催 大分市美術館

後援 大分合同新聞社、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、エフエム大分、OCT大分ケーブルテレコム

出品点数 油彩画127点、水彩画13点、版画24点、日本画2点、パステル画1点及び関連資料

観覧者数 2,204人

観覧料 一般500（400）円／高大生300（250）円、中学生以下無料
※（ ）内は20人以上の団体料金

作家トーク 6月20日（土） 午後2時～3時30分 ハイビジョンホール 101人
※作家病氣療養中のため、御子息によるトークに変更し、開催した。

展示解説 ■美術館職員による展示解説（要観覧料）
日時 会期中毎週水曜日 午後2時～
場所 企画展示室
参加者 34人

印刷物 ポスターB2判・チラシA4判

関連記事 「画業振り返る170点 脇坂秀樹展始まる」『大分合同新聞』6月13日
「脇坂秀樹展「生の証し」回顧録」『大分合同新聞』6月18日

（担当 大神）

目録

No.	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・素材	所蔵・出品歴・他
1	静物	1952	37.9 × 45.5	油彩・キャンバス	春季大分県美術展
2	秋相	1949	54.0 × 85.0	紙本着色	第7回大分県美術協会展
3	廃墟	1950	52.0 × 58.0	紙本着色	第9回大分県美術協会展/K氏賞
4	ふるさと	1951	24.3 × 33.4	パステル・紙	
5	晩秋(九翠溪)	1952	33.3 × 45.5	油彩・キャンバス	個人蔵
6	Y嬢像	1955	72.7 × 53.0	油彩・キャンバス	第1回別府市美術展(賞)/別府市美術館蔵
7	一隅	1953	72.7 × 53.0	油彩・キャンバス	第12回大分県美術展
8	少女	1952	45.5 × 37.9	油彩・キャンバス	第1回カンナ会展
9	自像(証)	1953	45.5 × 37.9	油彩・キャンバス	第1回カンナ会展
10	赤衣	1954	72.7 × 53.0	油彩・キャンバス	第2回カンナ会展
11	静物習作	1952	24.3 × 33.4	油彩・キャンバス	個人蔵
12	読書	1952	90.9 × 116.7	油彩・キャンバス	第11回大分県美術協会展/H氏賞/大分県立別府青山高等学校蔵
13	黒衣	1954	116.7 × 90.9	油彩・キャンバス	第40回光風展
14	風景	1955	65.2 × 90.9	油彩・キャンバス	第41回光風展
15	枯花と少女	1956	116.7 × 80.3	油彩・キャンバス	第42回光風展/個人蔵
16	静物	1956	72.7 × 53.0	油彩・キャンバス	個人蔵
17	湿地の家	1956	53.0 × 72.7	油彩・キャンバス	第18回大分県美術展/個人蔵
18	湿地の家	1956	80.3 × 116.7	油彩・キャンバス	第19回大分県美術展/大分県美術協会賞/大分県立芸術会館蔵
19	廃物再生工場	1957	72.7 × 116.7	油彩・キャンバス	第43回光風展/大分製紙蔵
20	風景	1959	80.3 × 116.7	油彩・キャンバス	第45回光風展
21	静弾	1958	116.7 × 90.9	油彩・キャンバス	第44回光風展/別府市美術館蔵
22	風景	1959	80.3 × 116.7	油彩・キャンバス	第25回東光展(ペンテル賞)
23	飼われた鳥	1959	90.9 × 60.6	油彩・キャンバス	第23回大分県美術展
24	灼土の丘	1959	130.3 × 162.1	油彩・キャンバス	第25回東光展(ペンテル賞)/TOSテレビ大分蔵
25	家族	1960	116.7 × 90.9	油彩・キャンバス	第26回東光展(会友推挙)/グローバルライフ生石
26	建物の丘	1960	90.9 × 116.7	油彩・キャンバス	第26回東光展(会友推挙)
27	剥落する偶像	1961	112.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第27回東光展/第5回安井賞展/大分県立芸術会館蔵
28	木のある風景	1962	72.7 × 90.9	油彩・キャンバス	第29回大分県美術展
29	列車軌道のある風景	1963	60.6 × 90.9	油彩・キャンバス	第31回大分県美術展
30	廃物再生工場	1963	97.0 × 162.1	油彩・キャンバス	第29回東光展
31	炉	1964	90.9 × 60.6	油彩・キャンバス	春季大分県美術展
32	残象	1964	130.3 × 162.1	油彩・キャンバス	第30回東光展(会員推挙)/大分市美術館蔵
33	飼われた鳥Ⅱ	1964	90.9 × 60.6	油彩・キャンバス	第33回大分県美術展
34	船がある	1965	97.0 × 162.1	油彩・キャンバス	第31回東光展/大分市美術館蔵
35	家族	1965	145.5 × 112.1	油彩・キャンバス	第31回東光展
36	残象	1965	130.3 × 193.9	油彩・キャンバス	第35回大分県美術展
37	シグナルのある空間	1966	162.1 × 112.1	油彩・キャンバス	第32回東光展
38	杵築の竹林	1968	60.6 × 90.9	油彩・キャンバス	春季大分県美術展/妙徳寺蔵
39	少年	1968	145.5 × 89.4	油彩・キャンバス	第34回東光展
40	坐像	1968	145.5 × 112.1	油彩・キャンバス	第4回大分県美術展/大分県美術協会賞
41	街がある	1969	130.3 × 162.1	油彩・キャンバス	第35回東光展
42	習作	1960	100.0 × 72.7	水彩・紙	第5回大分県水彩画展
43	こども	1962	100.0 × 72.7	水彩・紙	第7回大分県水彩画展

No.	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・素材	所蔵・出品歴・他
44	鳩の家	1964	100.0 × 72.7	水彩・紙	第4回みずえ6人展
45	画室の夜	1966	100.0 × 72.7	水彩・紙	第6回みずえ6人展
46	赤い椅子で	1968	72.7 × 53.0	水彩・紙	第8回みずえ6人展
47	七つの日	1968	72.7 × 53.0	水彩・紙	
48	パイプのある静物	1972	72.7 × 53.0	水彩・紙	第12回みずえ6人展
49	ランプのある静物	1972	72.7 × 53.0	水彩・紙	第12回みずえ6人展／個人蔵
50	標識による人々	1971	145.5 × 90.9	油彩・キャンバス	第7回大分県美術展
51	門	1968	145.5 × 89.4	油彩・キャンバス	春季大分県美術展
52	塔のある緑の風景	1970	112.1 × 145.5	油彩・キャンバス	第36回東光展
53	倉がある	1971	130.3 × 162.1	油彩・キャンバス	第37回東光展(委員推挙)
54	運ばれる空間	1972	90.9 × 145.5	油彩・キャンバス	第38回東光展
55	運ばれる空間	1978	162.1 × 97.0	油彩・キャンバス	第44回東光展
56	春蘭	1968	11.5 × 14.0	木版画	朱竹表紙原画
57	石仏三尊	1979	15.0 × 16.0	木版画	ふるさとのうた表紙原画
58	石仏(陽)	1979	10.5 × 15.0	木版画	
59	石仏(陰)	1979	10.5 × 15.0	木版画	
60	湧雲由布岳(陽)	1979	14.0 × 13.0	木版画	ふるさとのうた表紙原画
61	湧雲由布岳(陰)	1979	11.5 × 13.0	木版画	
62	ガラスのドクダミ	2004	11.5 × 13.0	木版画	朱竹表紙原画
63	白木蓮	2004	11.5 × 13.0	木版画	新春版画展
64	ばら	2004	11.5 × 13.0	木版画	新春版画展
65	落の花	2004	12.0 × 14.0	木版画	朱竹表紙原画
66	定家桂	2004	11.5 × 13.0	木版画	新春版画展
67	風蘭	2004	11.5 × 13.0	木版画	新春版画展
68	胡蝶蘭	2004	26.5 × 21.0	木版画	新春版画展
69	花の咲き初め	2004	20.0 × 20.0	木版画	新春版画展
70	仏頭	2004	11.0 × 12.5	木版画	新春版画展
71	杜の住人	2005	19.8 × 14.5	木版画	第14回個展
72	黒い壺のくちなし	2004	26.5 × 21.0	木版画	新春版画展
73	ガラスの花A	2004	26.5 × 21.0	木版画	新春版画展
74	ガラスの花B	2004	26.5 × 21.0	木版画	新春版画展
75	初夏の花	2004	26.5 × 21.0	木版画	新春版画展
76	千両	2004	26.5 × 21.0	木版画	新春版画展
77	寒木立	2004	9.5 × 10.5	木版画	新春版画展
78	春蘭一茎二花	2004	23.0 × 19.0	木版画	新春版画展
79	一葉草	2004	24.0 × 21.0	木版画	新春版画展
80	犬吠崎(初秋)	1995	45.5 × 53.0	油彩・キャンバス	第8回個展
81	初秋の海	1973	31.8 × 40.9	油彩・キャンバス	大分の風物40展／個人蔵
82	秋景由布	1991	45.5 × 53.0	油彩・キャンバス	個人蔵
83	山と邨	2003	31.8 × 40.9	油彩・キャンバス	個人蔵
84	海景(関崎)	1997	24.3 × 33.4	油彩・キャンバス	第9回個展／個人蔵
85	晩秋	1970	60.6 × 72.7	油彩・キャンバス	第2回個展／グローバルライフ生石
86	伐株山(秋)	1984	45.5 × 53.0	油彩・キャンバス	第5回個展／個人蔵
87	邨(保戸島)	1973	112.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第39回東光展
88	剥落する偶像	1974	112.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第40回東光展
89	残象	1975	97.0 × 145.5	油彩・キャンバス	第41回東光展
90	在る偶像	1979	112.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第45回東光展／TOSテレビ大分蔵
91	ある風景	1979	112.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第15回大分県美術展／大分県美術協会賞／第46回東光展／大分県立芸術会館蔵
92	風景(春暁)	1990	89.4 × 130.3	油彩・キャンバス	第26回大分県美術展
93	風景'83	1983	97.0 × 162.0	油彩・キャンバス	第49回東光展／大分県立芸術会館蔵

No.	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・素材	所蔵・出品歴・他
94	ある風景	1977	97.0 × 130.3	油彩・キャンバス	第43回東光展
95	風景	1985	162.1 × 97.0	油彩・キャンバス	春季大分県美術展
96	萌	1984	130.3 × 162.1	油彩・キャンバス	第50回東光展
97	海に向かいて	1985	89.4 × 130.3	油彩・キャンバス	第51回東光展
98	山に向かいて	1989	97.0 × 130.3	油彩・キャンバス	第55回東光展／TOSテレビ大分蔵
99	風景(灯)	1989	112.1 × 145.5	油彩・キャンバス	第25回大分県美術展／大分県美術協会賞／第56回東光展
100	画室に花	1991	90.9 × 65.2	油彩・キャンバス	春季大分県美術展／眞覚寺蔵
101	景(高瀬仏)	1993	97.0 × 162.1	油彩・キャンバス	第59回東光展
102	風景	1992	97.0 × 162.1	油彩・キャンバス	第58回東光展
103	荘と叢	1989	90.9 × 116.7	油彩・キャンバス	春季大分県美術展
104	雲たつ朝	1994	112.1 × 145.5	油彩・キャンバス	春季大分県美術展／富岡公民館蔵
105	風景(灯)	1991	97.0 × 162.1	油彩・キャンバス	
106	風景(競技場)	1994	97.0 × 162.1	油彩・キャンバス	第60回東光展
107	変容する丘	1994	112.1 × 162.1	油彩・キャンバス	第30回大分県美術展／大分県美術協会賞／第61回東光展
108	変容した丘	1997	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	第63回東光展
109	路と月	1999	162.1 × 130.3	油彩・キャンバス	第65回東光展
110	燈と塔	1998	80.3 × 130.3	油彩・キャンバス	第34回大分県美術展
111	海景(関崎)	1997	89.4 × 130.3	油彩・キャンバス	個人蔵
112	木のある風景	1998	130.3 × 130.3	油彩・キャンバス	第64回東光展
113	路と塔	2000	130.3 × 130.3	油彩・キャンバス	第66回東光展
114	変容する街Ⅱ	2001	130.3 × 130.3	油彩・キャンバス	第67回東光展
115	里山の風景	2003	90.9 × 90.9	油彩・キャンバス	春季大分県美術展
116	里山の風景Ⅱ	2002	130.3 × 130.3	油彩・キャンバス	第68回東光展
117	里山の風景(O2)	2002	90.9 × 90.9	油彩・キャンバス	春季大分県美術展
118	里山の風景(邨)	2003	130.3 × 130.3	油彩・キャンバス	第69回東光展
119	山容(春)	2003	90.9 × 90.9	油彩・キャンバス	春季大分県美術展
120	山と邨	2003	97.0 × 130.3	油彩・キャンバス	第39回大分県美術展／グローバルライフ生石
121	春暁	2008	90.9 × 116.7	油彩・キャンバス	第75回東光展
122	少女	1954	33.4 × 24.3	油彩・キャンバス	個人蔵
123	黒の中	1969	40.9 × 31.8	水彩・紙	第9回大分県水彩画展／個人蔵
124	小布施の土苗	1999	33.4 × 24.3	油彩・キャンバス	個人蔵
125	露草図	1980	37.9 × 45.5	水彩・紙	第4回個展／個人蔵
126	暁明に逝く	1980	40.9 × 24.5	油彩・キャンバス	
127	杜の住人	1964	33.4 × 24.3	油彩・キャンバス	個人蔵
128	小野屋風景	1970	45.5 × 53.0	油彩・キャンバス	第2回個展
129	パンジー	1980	10.5 × 12.5	水彩・紙	個人蔵
130	ガラスの十葉	1980	10.5 × 12.5	水彩・紙	個人蔵
131	復位仏頭	1997	33.4 × 24.3	油彩・キャンバス	第9回個展
132	仏頭	1973	50.0 × 60.6	油彩・キャンバス	個人蔵
133	建物の丘	1960	36.5 × 50.0	水彩・紙	個人蔵
134	桜島(1)	1990頃	17.9 × 13.9	油彩・キャンバス	個人蔵
135	湧雲由布	1971	21.0 × 26.5	油彩・キャンバス	個人蔵
136	三俣山	1970	22.0 × 27.3	油彩・キャンバス	第2回個展／個人蔵
137	金鱗湖	1977	31.8 × 40.9	油彩・キャンバス	第3回個展／個人蔵
138	安岐ダム湖畔	1977	31.8 × 40.9	油彩・キャンバス	第3回個展
139	雲たつ朝	1994	37.9 × 45.5	油彩・キャンバス	個人蔵
140	ガラスの玉椿	1984	27.3 × 22.0	油彩・キャンバス	第5回個展／個人蔵
141	ガラスの石榴花	1997	31.8 × 31.8	油彩・キャンバス	個人蔵
142	紅白椿	1997	40.9 × 31.8	油彩・キャンバス	個人蔵
143	白椿	1993	33.4 × 19.1	油彩・キャンバス	第7回個展／個人蔵

No.	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・素材	所蔵・出品歴・他
144	椿	1993	33.4 × 21.2	油彩・キャンバス	第7回個展／個人蔵
145	ガラスのむくげ	1994	27.3 × 22.0	油彩・キャンバス	大分県美術協会30周年記念特別展
146	槿花一輪	1984	33.4 × 21.2	油彩・キャンバス	第5回個展／個人蔵
147	秋の実	1980	40.9 × 31.8	油彩・キャンバス	第4回個展／個人蔵
148	たこ壺の秋海棠	1995	53.0 × 40.9	油彩・キャンバス	第8回個展
149	六調子の玉椿	1991	40.9 × 31.8	油彩・キャンバス	第6回個展／個人蔵
150	豊後海	1980	22.7 × 15.8	油彩・キャンバス	第4回個展／個人蔵
151	双椿(白)	1993	22.7 × 15.8	油彩・キャンバス	個人蔵
152	向陽花	1980	13.9 × 17.9	油彩・キャンバス	第4回個展
153	鶏頭花	1977	17.9 × 13.9	油彩・キャンバス	第3回個展／個人蔵
154	花(むくげ)	1977	22.7 × 15.8	油彩・キャンバス	第3回個展／個人蔵
155	一輪白椿	1997	22.7 × 15.8	油彩・キャンバス	個人蔵
156	牡丹	1970	13.9 × 17.9	油彩・キャンバス	個人蔵
157	小壺の椿	1993	22.1 × 16.6	油彩・キャンバス	個人蔵
158	白い花	1999	72.7 × 53.0	油彩・キャンバス	個人蔵
159	カサブランカ	1997	40.9 × 31.8	油彩・キャンバス	第9回個展／個人蔵
160	白い花Ⅱ	1999	53.0 × 40.9	油彩・キャンバス	個人蔵
161	花の静物	1970	45.5 × 37.9	油彩・キャンバス	個人蔵
162	藪椿	2005	40.9 × 31.8	油彩・キャンバス	第14回個展
163	垣根ばら	2001	33.4 × 21.2	油彩・キャンバス	第11回個展／個人蔵
164	花	2001	33.4 × 33.4	油彩・キャンバス	個人蔵
165	赤い盆	2001	22.0 × 27.3	油彩・キャンバス	第11回個展／個人蔵
166	秋桜花	2008	53.0 × 45.5	油彩・キャンバス	第15回個展
167	白い花	1999	53.0 × 40.9	油彩・キャンバス	個人蔵

3. 1. 4. みんな大好きアンパンマン やなせたかしの世界

概要 誕生から40年近くの年月が経ち、老若男女を問わず多くの人々に愛される国民的ヒーロー「アンパンマン」は、やなせたかしにより生み出された。

やなせは50年以上に及ぶ創作活動の中で、「アンパンマン」の他にも、「やさしいライオン」、「チリンのすず」などの絵本作家として著名であり、また、童謡「てのひらを太陽に」の作詞者としても知られている。

本展では漫画家・絵本作家としてのみならず、画家やデザイナー、詩人、さらには編集者として、多岐にわたり活躍を続けてきた創作者やなせたかしの魅力的な作品の数々を一堂に集め、その全貌を紹介した。

会期 平成21年7月10日（金）～8月31日（月） 公開日数52日

主催 大分市美術館、大分合同新聞社

後援 NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送
エフエム大分、OCT大分ケーブルテレコム

協力 有限会社やなせスタジオ、財団法人アンパンマンミュージアム振興財団、
株式会社フレーベル館

企画協力 株式会社七彩社

出品点数 アクリル画、版画、絵本原画等166点

観覧者数 42,488人

観覧料 一般800（600）円／高大生600（400）円、中学生以下無料
※（ ）内は20人以上の団体料金 ※子ども（中学生以下）の同伴者は500円

印刷物 ・ポスターB2判、チラシA4判、ワークシートA4判3種類（アート・ワンダーランド2009と共通）

関連記事 「愛と勇気たっぷり 90年のあゆみ、166点ずらり やなせたかしの世界展」『大分合同新聞』夕刊 7月10日
「アンパンマン原画など166点 やなせたかし展」『読売新聞』7月14日
「みんな大好きアンパンマン やなせたかしの世界展から 上 てのひらを太陽に」『大分合同新聞』夕刊 7月16日
「みんな大好きアンパンマン やなせたかしの世界展から 下 てのひらを太陽に」『大分合同新聞』夕刊 7月17日
「やなせたかしの芸術にふれて 児玉成弘」『大分合同新聞』夕刊 7月30日
「やなせたかしの世界展入場者が2万人突破」『大分合同新聞』夕刊 8月7日
「記念グッズ うれしい やなせたかし展 3万人突破」『大分合同新聞』8月19日
「4万人を突破 やなせたかしの世界展」『大分合同新聞』8月31日

（担当 岡村）

目録

No.	作品名	寸法 (cm)
1	2005年1月	57.6×56.6
2	2005年2月	57.6×56.6
3	2005年3月	57.6×56.6
4	2005年4月	57.6×56.6
5	2005年5月	57.6×56.6
6	2005年6月	57.6×56.6
7	2005年7月	57.6×56.6
8	2005年8月	57.6×56.6
9	2005年9月	57.6×56.6
10	2005年10月	57.6×56.6
11	2005年11月	57.6×56.6
12	2005年12月	57.6×56.6
13	雲と画家	44.0×35.0
14	波の鳥	48.0×26.5
15	落ち葉しぐれ	48.0×26.5
16	イルカのサーフィン	48.0×26.5
17	放水!	48.0×26.5
18	紙ひこうき	40.0×37.0
19	リアリズム	48.0×26.5
20	“チュー”リップ	48.0×26.5
21	スーパーウルトラジャンプ	48.0×26.5
22	落ち葉の昇天	48.0×26.5
23	やさしいライオン 1	49.4×54.4
24	やさしいライオン 2	49.4×54.4
25	やさしいライオン 3	49.4×54.4
26	やさしいライオン 4	49.4×54.4
27	やさしいライオン 5	49.4×54.4
28	やさしいライオン 6	49.4×54.4
29	やさしいライオン 7	49.4×54.4
30	やさしいライオン 8	49.4×54.4
31	やさしいライオン 9	49.4×54.4
32	やさしいライオン 10	49.4×54.4
33	やさしいライオン 11	49.4×54.4
34	やさしいライオン 12	49.4×54.4
35	やさしいライオン 13	49.4×54.4
36	やさしいライオン 14	49.4×54.4
37	やさしいライオン 15	49.4×54.4
38	やさしいライオン 16	49.4×54.4
39	やさしいライオン 17	49.4×54.4
40	やさしいライオン 18	49.4×54.4
41	やさしいライオン 19	49.4×54.4
42	やさしいライオン 20	49.4×54.4
43	チリンのすず 1	67.0×65.0

No.	作品名	寸法 (cm)
44	チリンのすず 2	67.0×65.0
45	チリンのすず 3	67.0×65.0
46	チリンのすず 4	67.0×65.0
47	チリンのすず 5	67.0×65.0
48	チリンのすず 6	67.0×65.0
49	チリンのすず 7	67.0×65.0
50	チリンのすず 8	67.0×65.0
51	チリンのすず 9	67.0×65.0
52	チリンのすず 10	67.0×65.0
53	チリンのすず 11	67.0×65.0
54	チリンのすず 12	67.0×65.0
55	チリンのすず 13	67.0×65.0
56	チリンのすず 14	67.0×65.0
57	チリンのすず 15	67.0×65.0
58	チリンのすず 16	67.0×65.0
59	チリンのすず 17	67.0×65.0
60	チリンのすず 18	67.0×65.0
61	チリンのすず 19	67.0×65.0
62	チリンヌイグルミ	—
63	靴ぬいで踏めばやさしい春の芝	60.5×49.0
64	紋白にさそわれ迎る丘の道	60.5×49.0
65	野をゆけば午睡の蝶が眼をさます	60.5×49.0
66	ぼくらの家がこの街で一番暖かい	60.5×49.0
67	買ったての赤鉛筆に似る秋の山	60.5×49.0
68	まひる野に夢落下傘ふりしきる	60.5×49.0
69	デュエット・燃える恋	42.5×41.5
70	星降る夜に	43.0×43.0
71	ほほえみ	43.0×43.0
72	笛の調べ	43.0×43.0
73	愛のハーモニー	43.0×43.0
74	正装の顔してのぼる初日の出	55.0×55.0
75	ささめゆき水仙咲いたうれしげに	55.0×55.0
76	色鉛筆で描いたか若い草萌える	55.0×55.0
77	ピーマンに閉じこめられたか五月闇	55.0×55.0
78	野をゆけば午睡の蝶が眼をさます	55.0×55.0
79	赤い傘させば華やぐ梅雨の雨	55.0×55.0
80	秋燈遠くきこえるワルツかな	55.0×55.0
81	波しぶきやがて崩れる砂の家	55.0×55.0
82	夏の日の恋も砂丘に埋もれて	55.0×55.0
83	廃線に幻影電車走る秋	55.0×55.0
84	秋の夢ハンテンボクの葉に乗って	55.0×55.0
85	星屑こぼれて終わる世紀末	55.0×55.0
86	てのひらを太陽に	60.7×79.2

No.	作品名	寸法 (cm)
87	てのひらを太陽に	78.0×112.5
88	好きな風景	64.0×78.5
89	生命の春	126.0×71.0
90	あこがれ	125.0×57.5
91	人生なんかにつまづいて	123.5×39.5
92	絶望のとなり	63.5×108.5
93	しあわせよカタツムリにのって	64.0×78.5
94	あるいちにちがあった	63.5×109.5
95	ちいさなてのひらでも	78.0×112.5
96	あるいちにちがあった・・・	43.7×46.7
97	絶望のとなりにだれかがそっと腰かけた	43.7×46.7
98	勇気がぼくにささやいた涙こぼすながんばれと	43.7×46.7
99	ほほえむことを忘れちゃいけない	43.7×46.7
100	心と心がふれあってなんにもいわずにわかること	43.7×46.7
101	一元玉は・・・	37.0×44.5
102	ごはんつぶひとつづつに・・・	37.0×44.5
103	夕陽よ君はさびしいか・・・	37.0×44.5
104	うさぎが草をたべている・・・	37.0×44.5
105	る・・・	37.0×44.5
106	ぼくはちいさな雲だから・・・	37.0×44.5
107	あるいちにちがあった・・・	37.0×44.5
108	絶望のとなりに・・・	37.0×44.5
109	麦はやっと・・・	37.0×44.5
110	タンポポのわたげには・・・	37.0×44.5
111	屑を入れるということ・・・	37.0×44.5
112	しあわせよあわてるな・・・	37.0×44.5
113	おいらも私もみなさんも・・・	37.0×44.5
114	ことりが指にとまった・・・	37.0×44.5
115	て・・・	37.0×44.5
116	アンパンマンのマーチ	77.4×112.0
117	散華 アンパンマンとドキンちゃん	29.0×25.0
118	散華 アンパンマンとばいきんまん	29.0×25.0
119	散華 アンパンマン	29.0×25.0
120	散華 アンパンマン	43.0×43.0
121	コキンちゃん	34.2×34.2
122	アンパンマンとあおいなみだ 1	67.4×64.9
123	アンパンマンとあおいなみだ 2	67.4×64.9
124	アンパンマンとあおいなみだ 3	67.4×64.9
125	アンパンマンとあおいなみだ 4	67.4×64.9
126	アンパンマンとあおいなみだ 5	67.4×64.9

No.	作品名	寸法 (cm)
127	アンパンマンとあおいなみだ 6	67.4×64.9
128	アンパンマンとあおいなみだ 7	67.4×64.9
129	アンパンマンとあおいなみだ 8	67.4×64.9
130	アンパンマンとあおいなみだ 9	67.4×64.9
131	アンパンマンとあおいなみだ 10	67.4×64.9
132	アンパンマンとあおいなみだ 11	67.4×64.9
133	アンパンマンとあおいなみだ 12	67.4×64.9
134	アンパンマンとあおいなみだ 13	67.4×64.9
135	アンパンマンとあおいなみだ 14	67.4×64.9
136	アンパンマンとあおいなみだ 15	67.4×64.9
137	アンパンマンとあおいなみだ 16	67.4×64.9
138	アンパンマンとあおいなみだ 17	67.4×64.9
139	アンパンマンとあおいなみだ 18	67.4×64.9
140	アンパンマンとたのしい仲間たち	116.8×91.0
141	てのひらを太陽に	116.8×91.0
142	アンパンマンバルーン	116.8×91.0
143	秋の夕暮れのパン工場	116.8×91.0
144	ゴミ怪獣ダストモデーモン	116.8×91.0
145	不思議沼の影	180.0×120.0
146	かくれんぼの木	180.0×120.0
147	顔をあげるアンパンマン	180.0×120.0
148	オーロラの世界へ	91.0×72.7
149	カツラシマンと鉄火のまきちゃん	91.0×72.7
150	沼に落ちたドロンコサニー	91.0×72.7
151	青ざめるロールパンナ	116.8×91.0
152	ほしのごデカルン、ヒカルン	37.0×37.5
153	アンパンマン号となかまたち	37.0×37.5
154	うきうきダンス	37.0×37.5
155	はみがきまん大活躍	37.0×37.5
156	アンパンマンとラッピー	37.0×37.5
157	アンパンマンとばいきんまん	37.0×37.5
158	アンパンマン	43.0×35.0
159	朝日の海を越えて	91.0×72.7
160	石になったメロンパンナ	13.5×10.0
161	石になったアンパンマン	13.5×10.0
162	石になったばいきんまん	16.0×10.0
163	石になったドキンちゃん	15.0×10.0
164	筒花入 おむすびまんとかむすびまん	8.2×12.5
165	筒花入 おむすびまんとかむすびまん	7.7×19.3
166	筒花入 ナガネギマン	7.7×19.3

3. 1. 5. 日本近代洋画への道ー山岡コレクションを中心にー

概要 幻のコレクションとされていたヤンマーディーゼルの創業者である山岡孫吉(1888ー1962)氏の収集品の中から、日本洋画の父ともいわれる高橋由一をはじめ、渡仏し初のサロン入選者となった五姓田義松、外光派の清新な画風を取り入れた黒田清輝、日本の風土を意識し独自性を追求した藤島武二、青木繁など、日本近代洋画の草創から確立期に活躍した、約 70 作家、180 点の作品により、日本近代洋画の歩みを紹介した。

会期 平成 21 年 9 月 5 日 (土) ~10 月 18 日 (日) 公開日数 40 日

主催 大分市美術館

後援 大分合同新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、エフエム大分、OCT 大分ケーブルテレコム

協力 (財)日動美術財団

出品点数 洋画など 180 点

観覧者数 6,134 人

観覧料 一般 800 円 (600 円) / 高大生 600 円 (400 円)
※()内は 20 人以上の団体料金

関連行事 ■講演会 (入場無料)

日時 10 月 4 日 午後 1 時 30 分~3 時

場所 ハイビジョンホール

講師 菅 章 (当館副館長)

演題 「日本近代洋画の先駆者 藤 雅三の軌跡」

参加者 58 名

■美術館職員による展示解説 (要観覧料)

日時 会期中毎週水曜日午後 2 時~30 分程度

場所 企画展示室

参加者 137 名

印刷物 ・ポスターB2版、チラシA4版

関連記事 「“絵画新時代の夜明け”を感じて」『大分合同新聞』夕刊 9 月 5 日
「日本近代洋画への道<上> 高橋由一「鮭図」」『大分合同新聞』夕刊 9 月 10 日
「日本近代洋画への道<下> 青木繁「二人の少女」」『大分合同新聞』夕刊 9 月 11 日
「日本近代洋画の歴史をたどる」『大分合同新聞』夕刊 9 月 17 日
「高名画家ぞらり 日本近代洋画への道」『大分合同新聞』夕刊 10 月 8 日
「日本近代洋画の先駆者 藤雅三」『大分合同新聞』夕刊 10 月 12 日

(担当 野田)

目録

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法
1	伝 信方	達磨図		37.0×51.6	墨・彩色
2	小川破笠	海魚	1740	23.3×40.2	墨・彩色
3	円山応挙	支那風景/三十三間堂		各22.0×27.0	木版・手彩色
4	伝 円山応挙	港の図	1767	36.0×31.5	墨・彩色
5	司馬江漢	風景		49.0×68.0	彩色
6	司馬江漢	房州利根河今井渡		43.5×54.3	墨
7	司馬江岷	七里ヶ浜		27.3×50.5	泥絵具
8	司馬道士	雲仙牧羊図		30.7×43.6	泥絵具
9	垂欧堂田善	浅草観音図		25.0×52.0	銅版画
10	伝 小田野直武	ライオン図		90.0×33.1	墨・彩色
11	立原杏所	鳴門風景		60.0×95.5	墨・彩色
12	鋏形恵斎	洋人舞踏図		16.1×25.2	墨
13	安田雷洲	外国戦争図 (ナポレオン戦争図)		54.5×69.3	墨・彩色
14	作者不詳	婦女弹琴図		50.5×44.5	泥絵具
15	長崎系洋風画 (作者不詳)	異人館		104.5×58.3	泥絵具
16	長崎系洋風画 (作者不詳)	異人図		50.1×31.3	油彩
17	長崎系洋風画 (伝 平賀源内)	薬草会議図		45.7×90.2	油彩
18	長崎系洋風画 (作者不詳)	異人夫妻図		158.0×83.5	油彩
19	泥絵 (作者不詳)	外桜田風景		31.6×47.0	泥絵具
20	泥絵 (作者不詳)	高縄風景		31.6×47.3	泥絵具
21	泥絵 (作者不詳)	向島風景		25.0×52.5	泥絵具
22	チャールズ・ワーグマン	廣東夫人	1858	16.3×14.7	鉛筆
23	チャールズ・ワーグマン	支那夫人	1858	21.0×13.5	水彩
24	チャールズ・ワーグマン	廣東風景	1858	17.0×21.5	水彩
25	チャールズ・ワーグマン	廣東風景	1858	20.3×22.0	水彩
26	チャールズ・ワーグマン	廣東風景	1858	22.7×25.2	水彩
27	チャールズ・ワーグマン	廣東風景		10.0×13.2	水彩
28	チャールズ・ワーグマン	長久保風景		23.7×29.5	鉛筆・水彩
29	チャールズ・ワーグマン	富士山遠望		23.0×30.5	水彩
30	チャールズ・ワーグマン	上州風景		23.5×30.7	鉛筆・水彩
31	チャールズ・ワーグマン	東海道風景		17.8×25.5	水彩
32	チャールズ・ワーグマン	信州風景		25.8×35.5	水彩
33	チャールズ・ワーグマン	箱根風景		22.1×29.5	水彩
34	チャールズ・ワーグマン	七里ヶ浜		22.1×36.1	水彩
35	チャールズ・ワーグマン	新潟風景	1870	23.5×30.0	水彩
36	チャールズ・ワーグマン	藩士扮装図		27.5×22.5	水彩
37	チャールズ・ワーグマン	車夫		14.0×19.3	鉛筆
38	チャールズ・ワーグマン	明治の侍		22.5×18.7	水彩
39	チャールズ・ワーグマン	外国美人図		36.3×24.6	淡彩
40	チャールズ・ワーグマン	漫画 (伍長は答えた。憲兵さん、あなたの言う通り)		24.0×24.0	鉛筆・水彩
41	チャールズ・ワーグマン	桶屋		19.5×25.0	油彩
42	チャールズ・ワーグマン	武士の図		41.6×32.4	油彩
43	チャールズ・ワーグマン	小漁夫		38.0×22.8	油彩
44	チャールズ・ワーグマン	百合図	1878	81.7×60.5	油彩
45	チャールズ・ワーグマン	東禅寺浪士乱入図		34.8×51.5	水彩
46	チャールズ・ワーグマン	浦の風景		45.5×76.5	油彩
47	チャールズ・ワーグマン	ワーグマン夫人像		44.9×30.9	水彩
48	エドワード・キョソーネ	川上操六中将図	1896	59.0×45.5	木炭
49	ジョルジュ・ピゴ	万歳		30.2×19.3	油彩
50	ジョルジュ・ピゴ	武士の子		18.5×12.0	石版画
51	ジョルジュ・ピゴ	普仏戦争	1893	40.7×56.0	石版画
52	荒木寛畝	春芳争妍図		38.0×54.5	彩色
53	橋本雅邦	武官測量図		24.4×26.5	水彩

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法
54	徳川慶喜	池畔風景		17.6×33.0	油彩
55	床次正精	福山城		55.1×94.6	油彩
56	床次正精	港湾図		20.1×50.1	油彩
57	田村宗立	人物	1880	33.8×24.0	油彩
58	小林清親	雪の日		30.0×40.0	硝子絵
59	安達吟光	日本橋界限		34.5×52.0	油彩
60	小林安治	芸妓立姿		78.5×35.1	墨・彩色
61	権田守吉	各藩武士扮装図 (模写・近藤正純原画) 画帳		各37.8×26.0	墨・彩色
62	高橋由一	鮭図	1879-80	85.9×24.6	油彩
63	高橋由一	丁髷姿の自画像	1866-67	48.0×38.8	油彩
64	高橋由一	三偉人 リンカーン、ビスマルク、ケマル・パシヤ		36.3×28.6	墨・淡彩
65	高橋由一	青年図	1874	19.0×18.0	水彩
66	高橋由一	住吉神社	1874	28.0×20.0	水彩
67	高橋由一	本牧海岸	1877	51.7×63.9	油彩
68	高橋由一	品川海晏寺紅葉図	1880	45.7×69.9	油彩
69	高橋由一	驟雨図	1877頃	45.5×76.2	油彩
70	高橋由一	猫図		21.5×25.0	水彩
71	伝 高橋由一	蔬菜図		48.0×69.5	油彩
72	高橋由一	鯛図		54.6×75.9	油彩
73	五姓田芳柳	美人吹笛図		64.0×33.1	彩色
74	五姓田義松	少年法界坊		31.5×24.2	水彩
75	渡辺文三郎	多摩夕照図	1878	40.7×53.5	水彩
76	渡辺幽香	溪流		33.7×91.2	油彩
77	二世 五姓田芳柳	大楠公		130.4×96.0	油彩
78	二世 五姓田芳柳	婦人像 (井田讓夫人)		53.0×45.5	油彩
79	二世 五姓田芳柳	自画像		53.0×45.5	油彩
80	二世 五姓田芳柳	富嶽図		45.2×91.6	油彩
81	山内愚僊	住吉神社	1902	54.0×81.8	油彩
82	浅井忠	外国婦人図 (臨模)	1877	52.0×35.0	木炭
83	小山正太郎	山村嫁女 (A)		26.0×33.5	油彩
84	小山正太郎	山村嫁女 (B)		19.2×26.9	油彩
85	高橋源吉	小金井の桜		22.0×34.9	鉛筆・水彩
86	曾山幸彦	お茶の水風景		21.7×30.5	油彩
87	曾山幸彦	洋装少年		36.5×28.5	コンテ
88	百武兼行	ブルガリアの女	1882	93.3×71.3	油彩
89	国沢新九郎	英国風景 (初春郊外)		49.9×60.4	油彩
90	山本芳翠	内海風景		19.4×36.2	油彩
91	山本芳翠	日の出		20.5×33.0	油彩
92	山本芳翠	婦女横笛		31.5×42.4	油彩
93	山本芳翠	鬼と少女		44.4×33.4	油彩
94	山本芳翠	琉球風景 (A)	1887-88	46.9×37.0	油彩
95	山本芳翠	琉球風景 (B)	1887-88	46.8×37.0	油彩
96	山本芳翠	議会スケッチ (A)	1887	35.5×44.6	墨・彩色
97	山本芳翠	議会スケッチ (B)	1887	35.0×44.6	墨・彩色
98	川村清雄	バルスレイケン像		65.2×53.1	油彩
99	川村清雄	双鶏の図		45.8×87.5	油彩
100	川村清雄	花の宴		48.7×92.5	油彩
101	川村清雄	ベニス風景		91.2×45.3	油彩
102	五姓田義松	富嶽図		26.3×48.6	油彩
103	五姓田義松	七里ヶ浜		30.3×45.8	油彩
104	五姓田義松	塩原風景		34.3×48.6	油彩
105	五姓田義松	駿河湾風景		42.6×72.8	油彩
106	五姓田義松	人形の着物	1883	152.5×115.6	油彩
107	彭城貞徳	静物		73.5×150.5	油彩

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法
108	彭城貞徳	油絵屏風	19世紀	150.3×325.0	油彩
109	高橋勝蔵	桑港海岸	1893	23.4×35.7	水彩
110	高橋勝蔵	函館港	1901	32.5×48.8	水彩
111	高橋勝蔵	カリフォルニア風景		25.0×35.8	水彩
112	合田清	晩婦 (模写・エミール・アダン原画)	1886	19.6×30.5	木口木版
113	松岡寿	ホルバインの「エラスムス」臨模		44.0×35.3	鉛筆
114	山下りん	ヤコブ像 (使徒之図)		71.2×58.0	油彩
115	山下りん	機密の晩餐		27.3×48.7	油彩
116	ラゲーザ玉	蓮池		30.5×91.0	油彩
117	ラゲーザ玉	保津川の溪流		65.0×99.8	油彩
118	渡辺幽香	房州根本海岸	1897	49.5×95.0	油彩
119	山本芳翠	けしと小鳥	1892	40.6×55.6	油彩
120	山本芳翠	菊図		86.5×42.8	油彩
121	小山正太郎	吉野山遠望		33.6×45.7	油彩
122	小山正太郎	山村風景		33.5×45.5	油彩
123	小山正太郎	御嶽村遠望	1892	27.0×44.8	鉛筆・水彩
124	小山正太郎	相模川右岸小倉村水車	1906	44.0×28.0	鉛筆
125	小山正太郎	妙義山		44.0×28.0	鉛筆
126	小山正太郎	五旬起臥セシ若狭丸ノ甲板	1900	24.0×46.0	鉛筆・水彩
127	小山正太郎	入間西岸笹井村渡頭	1892	25.0×43.5	鉛筆
128	小山正太郎	皆野村	1908	26.3×46.0	鉛筆
129	小山正太郎	青梅風景	1902	56.9×41.8	油彩
130	中村不折	男の裸体	1902頃	80.5×59.5	油彩
131	中村不折	裸体図		125.5×93.2	油彩
132	中村不折	老漁夫	1906	166.9×97.0	油彩
133	二世五姓田芳柳	上杉景勝一笑図	1890	各56.0×41.2	油彩
134	岡精一	搜索 (奈良・般若寺)	1889	87.0×49.4	油彩
135	揚忠三郎	北野天神之図	1889	79.5×66.5	油彩
136	佐久間文吾	天神境内		34.5×26.0	泥絵具
137	佐久間文吾	北野神社		61.4×100.7	油彩
138	満谷国四郎	かりそめの悩み	1907	133.7×88.5	油彩
139	満谷国四郎	かぐや姫	1909	150.7×115.5	油彩
140	渡部審也	百姓		60.7×42.6	油彩
141	渡部審也	猿曳図	1898	124.3×91.2	油彩
142	渡部審也	供待図	1909	100.0×72.8	油彩
143	鈴木烏川	能舞図「末廣」		37.2×91.0	油彩
144	須田輝洲	唐犬と鶏		各24.5×17.9	泥絵具
145	須田輝洲	牡丹と水仙		37.8×74.3	油彩
146	北蓮蔵	静物		60.0×80.4	油彩
147	北蓮蔵	静物 (鼓)		53.0×60.0	油彩
148	二世五姓田芳柳	天津事変		124.7×86.0	油彩
149	東城鉦太郎	平壤攻略図		124.8×86.0	油彩
150	東城鉦太郎	旅順開城	1911	75.8×60.8	油彩
151	中村不折	日本海海戦		72.8×60.7	油彩
152	満谷国四郎	東京慈恵医院行啓		65.6×60.6	油彩
153	鹿子木孟郎	日露役奉天入城		72.0×55.5	油彩
154	ラファエル・コラン	婦人像		38.0×46.3	油彩
155	ラファエル・コラン	洋装の婦人像		26.5×21.5	鉛筆
156	ラファエル・コラン	裸婦		50.0×32.0	鉛筆
157	ラファエル・コラン	横たわる裸婦		20.6×45.0	コンテ
158	久米桂一郎	習作	1889	57.9×30.3	油彩
159	黒田清輝	裸体	1889	62.5×46.0	木炭
160	黒田清輝	昔語り (画稿)	1896頃	60.8×46.3	木炭
161	黒田清輝	清国負傷兵広島着	1894	23.8×14.8	ペン・墨

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法
162	黒田清輝	黒田清兼像	1907	81.1×65.4	油彩
163	黒田清輝	浜の丘 稲村ヶ崎海岸の積藁	1910頃	18.0×13.9	油彩
164	藤島武二	観桜会		32.1×41.0	油彩
165	藤島武二	ヴェニス風景	1908-09	23.6×32.8	油彩
166	長原孝太郎	百合図	1899	67.0×39.4	油彩
167	小林 萬吾	遠州浜名湖		40.9×53.0	油彩
168	湯浅一郎	妓生の図	1913	46.6×37.8	油彩
169	湯浅一郎	緑陰	1900	91.0×70.0	油彩
170	岡田三郎助	彫刻師	1890-91	64.5×45.9	油彩
171	岡田三郎助	久保田米齋像	1901	17.2×13.4	木炭
172	白滝幾之助	霧のテーマズ河 (模写・ターナー原画)		53.5×71.2	油彩
173	和田英作	快晴	1897頃	29.5×45.7	油彩
174	和田英作	近江石山寺紫式部	1925	52.9×41.1	油彩
175	橋本邦助	姉妹		120.5×90.9	油彩
176	小林鍾吉	舞妓図	1909	45.1×33.0	油彩
177	山本森之助	島原城址		42.8×64.5	油彩
178	青木繁	裸体	1903	63.3×46.5	木炭・赤チヨーク
179	青木繁	二人の少女	1909	60.5×45.5	油彩
180	中村彝	肖像	1908	42.6×28.3	油彩

3. 1. 6. ラウル デュフィ展 フランスのエスプリ 色彩と線のシンフォニー

概要 デュフィ(1877-1953)は、フランス北西部の港町ル・アーヴルに生まれ、23歳でパリの国立美術学校に入学。しかし、当時のアカデミックな教育に飽きたらず、フォービスムやセザンヌ等に強く傾倒。そして1920年代には、形態と色彩、それぞれが独立分離し、対象が揺らぐような独特な画風を確立。

以後もその表現を進化させ、簡潔な筆使いと輝くような色彩を駆使して、競馬場、浜辺の風景、音楽会等を描き出し、1937年には、パリ万博の電気館の大壁画制作に従事。最晩年の1952年には、ヴェネチアビエンナーレにおいて、絵画部門の最高賞を受賞。20世紀フランス画壇を代表する作家となった。

本展では、フランス国内所蔵作品を中心とした、油彩、水彩、版画、素描等74点(内、日本初公開約50点)により、デュフィの初期から晩年にいたる華麗な画業を紹介した。

会期 平成21年10月23日(金)～12月13日(日) 公開日数47日

主催 大分市美術館、大分合同新聞社

後援 NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、エフエム大分、OCT大分ケーブルテレコム

企画協力 IS ART INC.

出品点数 74点

観覧者数 6,720人

観覧料 一般1000(800)円／高大生700(500)円、中学生以下無料
※()内は20名以上の団体料金

関連行事 ■大分大学公開講座(大分大学・大分市美術館連携事業)

(1)日 時 11月14日 午後2時～

講 師 大分大学教育福祉科学部准教授 松田 聡氏

演 題 デュフィと音楽 参加者 98人

(2)日 時 11月21日 午後2時～

講 師 大分大学教育福祉科学部准教授 田中 修二氏

演 題 ラウル・デュフィ 色彩、線、光 参加者 84人

■美術館職員による展示解説 (要観覧料)

日 時 会期中毎週水曜日、11月28日、12月5日 午後2時～

参加者 221人

印刷物 ・ポスターB2版・チラシA4版

関連記事 「ラウル デュフィ展」『朝日新聞』夕刊10月21日

「日本初もたっぷり」『大分合同新聞』夕刊10月23日

「三人の水兵」『大分合同新聞』夕刊11月19日

「バッハへのオマージュ」『大分合同新聞』夕刊 11 月 20 日

田中修二「ラウル デュフィ展 光にあふれた世界」『大分合同新聞』11 月 30 日

松田聡「デュフィと音楽」『大分合同新聞』夕刊 12 月 3 日

(担当 宮崎)

目録

油彩・水彩

	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・素材
1	セーヌ河岸とノートル=ダム寺院	1902	27 x 36.6	木炭、グワッシュ
2	マルセイユの市場	1903	60 x 73	油彩・キャンバス
3	マルティエグの劇場	1903	59 x 80	油彩・キャンバス
4	マルティエグ	1903	44 x 61	油彩・キャンバス
5	自画像	1904	54 x 44	油彩・キャンバス
6	白い帆	1906	57 x 73	油彩・キャンバス
7	開かれた窓	1908	46 x 55	油彩・キャンバス
8	鳥かごのある風景	1913	64 x 49	水彩・紙
9	青い背景のカラーとマムシグサ	1920頃	64 x 49	グワッシュ・紙（織物の下絵）
10	フィレンツェの眺め	1922	43 x 63.3	水彩・紙
11	花束	1922頃	48.5 x 64	水彩・紙
12	青い背景のドレープ	1925頃	46 x 38	グワッシュ・紙（織物の下絵）
13	コンポジション	1925-30	39.5 x 31.5	グワッシュ・紙（織物の下絵）
14	マルセイユ港のアンフィトリテ （海の女神）	1925-30頃	67 x 50	水彩・紙
15	3人の水兵	1926	50 x 64	グワッシュ・紙
16	噴水	1927	46 x 55	油彩・キャンバス
17	ロンドン	1929	50 x 65	水彩・紙
18	黒い背景の花	1930頃	87 x 66	グワッシュ・紙（織物の下絵）
19	腰掛の裸婦	1932	127 x 87	油彩・キャンバス
20	ラングルの風景	1933頃	27 x 70	油彩・キャンバス
21	大きな麦畑	1933	65 x 81	油彩・キャンバス
22	エブソム競馬場の芝生	1933頃	48 x 62	水彩・紙
23	馬とジョッキー	1933-34	48.8 x 64.7	グワッシュ、水彩・紙
24	森の中で乗馬する人々	1933-34	50 x 65	水彩・紙
25	ドーヴィルのパドック	1934頃	50 x 65	水彩・紙
26	競馬場	1934-35頃	19 x 22	油彩・板
27	ドーヴィルのレガッタ	1934	33 x 92	油彩・キャンバス
28	ドーヴィルのレガッタ	1934	33 x 92	油彩・キャンバス
29	コンポジション	1937頃	49 x 64	水彩・紙
30	ラ・サルテ寺院（ヴェネツィア）	1938頃	50.2 x 65.4	水彩・紙
31	ラングルでの収穫	1938頃	25.5 x 50	油彩・板
32	収穫	1939	24 x 33	油彩・パネル
33	（ポッティチェリによる） ヴィーナスの誕生	1940頃	28 x 40	油彩・板
34	窓	1942-44	65 x 50	水彩、グワッシュ、パステル・紙
35	ベルピニャンのジャンヌ・ ダルク通りのアトリエ	1943	46 x 55	油彩・キャンバス
36	庭のテーブル	1943頃	48 x 60	水彩・紙
37	畑の祝祭	1943頃	31.5 x 48	水彩・紙
38	木のある風景	1944	50 x 66	水彩、グワッシュ・紙
39	ディッキー	1945	50.2 x 63.2	水彩・紙
40	青い五重奏	1946	35 x 46	油彩・キャンバス
41	バッハへのオマージュ	1946頃	50 x 61	油彩・ハードボード
42	大オーケストラ	1946頃	81 x 65	油彩・キャンバス
43	ニースのカジノ	1948	50 x 65	水彩・紙
44	カーニバル（ニースの祝日）	1948	38.1 x 46.4	油彩・キャンバス
45	ニースの5月	1948	63 x 47.5	水彩・紙
46	ミュージシャン	1948頃	12.5 x 20	油彩・キャンバス
47	オーケストラ	1948頃	16.5 x 22	油彩・キャンバス
48	五重奏	1948頃	33.2 x 41.4	油彩・キャンバス
49	レガッタ	1948頃	46 x 61	油彩・キャンバス
50	サン=タドレス	1948-52	22 x 26	油彩・キャンバス
51	ホンバーガー一家の庭	1950	50.5 x 65.7	水彩、グワッシュ・紙

	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・素材
52	メキシカンマリンバンド	1950-52	51 x 66	油彩・ハードボード
53	ヴェネツィアのアルルカン (道化師)	1952	43.5 x 35	水彩・紙

素描

	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・素材
54	競馬場のギュギュスト	1890	8.5 x 5.5	水彩・紙
55	競馬場のジョッキー	1890	17 x 11	水彩、グワッシュ・紙
56	ドン・サルスト	1890	14 x 9	鉛筆・紙
57	キュービスト的な風景	1909頃	31 x 24.5	鉛筆・紙
58	バラとアマリリス	1925	59 x 48	鉛筆・紙
59	絹織物店の広告	1925頃	28 x 30	鉛筆、グワッシュ・印画紙
60	オークション会場	1935頃	51.5 x 64.5	インク、鉛筆・トレーシングペーパー
61	「私のシャンゼリゼ」	1937	32 x 24.5	インク・トレーシングペーパー
62	ヴィーナスの頭部	1938	20 x 24.5	鉛筆・グラッシングペーパー
63	エクス=レ=バンの部屋	1944	50 x 65	鉛筆・トレーシングペーパー
64	収穫の風景	1945頃	20.5 x 24	インク、鉛筆・トレーシングペーパー

版画

	作品名	制作年	寸法(cm)	技法・素材
65	電気の精	1953	101.5 x 63.5	カラーリトグラフ
66	電気の精	1953	101.5 x 63.5	カラーリトグラフ
67	電気の精	1953	101.5 x 63.5	カラーリトグラフ
68	電気の精	1953	101.5 x 63.5	カラーリトグラフ
69	電気の精	1953	101.5 x 63.5	カラーリトグラフ
70	電気の精	1953	101.5 x 63.5	カラーリトグラフ
71	電気の精	1953	101.5 x 63.5	カラーリトグラフ
72	電気の精	1953	101.5 x 63.5	カラーリトグラフ
73	電気の精	1953	101.5 x 63.5	カラーリトグラフ
74	電気の精	1953	101.5 x 63.5	カラーリトグラフ

3. 1. 7. 第 58 回高文連 美術・書道・写真 中央展

概 要 大分県高等学校文化連盟と共催して開催した展覧会。美術・写真展には 39 校、写真展には、42 校が参加し、日々の創作活動に取り組む高校生たちの若々しくエネルギッシュな作品を紹介した。

【美術・写真展】

会 期 平成 21 年 12 月 17 日（木）～20 日（日） 公開日数 4 日間
主 催 大分県高等学校文化連盟、大分市美術館
後 援 大分県教育委員会、大分県芸術文化振興会議、大分県美術協会、
大分合同新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、
OAB 大分朝日放送、エフエム大分、OCT 大分ケーブルテレコム、シティ情報大分
出品点数 美術 36 校 205 点
写真 3 校 15 点
観覧者数 600 人
観 覧 料 無料

【書道展】

会 期 平成 21 年 12 月 22 日（火）～25 日（金） 公開日数 4 日間
主 催 大分県高等学校文化連盟、大分市美術館
後 援 大分県教育委員会、大分県芸術文化振興会議、大分県美術協会、
大分合同新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、
OAB 大分朝日放送、エフエム大分、OCT 大分ケーブルテレコム、シティ情報大分
出品点数 書道 42 校 228 点
観覧者数 1,132 人
観 覧 料 無料

（担当 大神）

3. 1. 8. 梅原龍三郎、安井曾太郎、マチス、ピカソ、ダリ

巨匠たちのパレット&絵画展 —新たな魅力と素顔—

概要 明治後期以降、日本洋画界では、印象派、後期印象派、フォーヴィスム、キュビスム等の新しい西欧美術を積極的に受容していく中で、昭和初期頃からは、日本の風土に適した日本的洋画の模索が行われるなど、日本独自の展開が見られ、多様な絵画世界が形成された。

本展では、日本的洋画を確立した梅原龍三郎、安井曾太郎をはじめ、昭和初期、画壇に旋風を起こした里見勝蔵、林武、福沢一郎など、わが国を代表する画家たちと、日本の画家たちに大きな影響を与えたマチス、デュフィ、ピカソ、ダリを加えた 43 画家の作品 58 点により、日本洋画の展開を紹介するとともに、画家たちが愛用し、制作過程の痕跡を留めたパレット 41 点を展示した。

会期 平成 22 年 1 月 5 日（火）～2 月 21 日（日） 公開日数 43 日間

主催 大分市美術館、大分合同新聞社

後援 NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、エフエム大分、OCT 大分ケーブルテレコム

協力 財団法人 日動美術財団

出品点数 絵画 58 点 パレット 41 点

観覧者数 7,163 人

観覧料 一般 800(600)円／高大生 600(400)円、中学生以下無料
※()内は 20 人以上の団体料金

関連事業 ■講演会（無料）

日時 平成 22 年 1 月 21 日 午後 3 時～4 時 30 分

場所 美術館ハイビジョンホール

講師 長谷川徳七氏（財団法人 日動美術財団理事長）

長谷川智恵子氏（株式会社 日動画廊副社長）

演題 パレットコレクションについて

参加者 108 人

展示解説 ■美術館職員による展示解説（要観覧料）

日時 会期中毎週水曜日 午後 2 時～

場所 企画展示室

参加者 174 名

関連記事 「渡辺画伯、来館し制作も」『大分合同新聞』12 月 28 日

（抜粋）「マチスやピカソ・・・40 人 巨匠たちのパレット展」『大分合同新聞』夕刊
1 月 5 日

御手洗賢司「心の葛藤 表出する道具」『大分合同新聞』夕刊1月21日
「巨匠たちの&絵画展から＝上＝」『大分合同新聞』夕刊1月27日
「作家との思い出語る」『大分合同新聞』夕刊1月28日
「巨匠たちの&絵画展から＝下＝」『大分合同新聞』夕刊1月28日
汐月顕「作家の秘密を見つけて」『大分合同新聞』夕刊2月4日

(担当 岩尾)

目録

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法・素材
1	H. マチス	窓辺にすわる女	1919-20	62.2×50.6	油彩・キャンバス
2	R. デュファイ	アスコットの観覧席前のパドック	1931	43.7×53.6	水彩・紙
3	藤田嗣治	画家の上着をはおる少女	1958	60.6×40.9	油彩・キャンバス
4	S. ダリ	ピカソの肖像		55.5×41.0	リトグラフ・紙
5	S. ダリ	花のカリカチュア		63.8×43.4	リトグラフ・紙
6	P. ピカソ	画家とパレット	1963	61.0×50.0	油彩・キャンバス
7	梅原龍三郎	裸婦虎	1931	65.0×80.2	油彩・キャンバス
8	安井曾太郎	実る柿	1937	45.8×65.0	油彩・キャンバス
9	金山平三	春霞	c. 1940	60.5×90.7	油彩・キャンバス
10	小糸源太郎	三色堇		18.0×18.0	油彩・キャンバス
11	熊谷守一	たんぽぽに蝶	1960	33.4×23.9	油彩・板
12	中川一政	薔薇		72.7×60.6	油彩・キャンバス
13	里見勝蔵	婦人像		72.7×60.6	油彩・キャンバス
14	里見勝蔵	観音像	1943	112.1×162.1	油彩・キャンバス
15	北川民次	セトモノ	1965	160.3×128.5	油彩・キャンバス
16	高島達四郎	裸婦群像 (海女)	1937	112.2×195.4	油彩・キャンバス
17	林 武	三味線	1964	100.0×80.3	油彩・キャンバス
18	東郷青児	婦人像		90.9×72.7	油彩・キャンバス
19	中村研一	花籠	1930	50.0×60.6	油彩・キャンバス
20	寺内萬治郎	裸婦		37.5×55.1	パステル・紙
21	江藤純平	椿	1931	73.0×91.0	油彩・キャンバス
22	江藤 純平	オリーブ畑	1982	90.5×116.0	油彩・キャンバス
23	福沢一郎	自画像		33.3×24.2	油彩・キャンバス
24	朝井閑右衛門	子供たち (雪) A	1978	37.2×59.3	油彩・キャンバス
25	鳥海青児	旧教寺院のある広場	1930-32	41.1×52.9	油彩・キャンバス
26	荻須高德	ポートレットの店	1972	60.6×72.7	油彩・キャンバス
27	向井潤吉	小吹雪く日	1987	90.9×116.7	油彩・キャンバス
28	佐藤敬	ピアノと子供	1951	130.0×162.0	油彩・キャンバス
29	佐藤敬	サンドニィ風景	1956	49.0×64.0	グワッシュ、パステル・紙
30	佐藤敬	巴里の裏町	1956	32.5×50.0	グワッシュ、パステル・紙
31	片岡球子	花		54.0×44.5	リトグラフ・紙
32	海老原喜之助	阿蘇	1962	60.7×72.8	油彩・キャンバス
33	三岸節子	祝祭	1942	96.6×146.0	油彩・キャンバス
34	宮本三郎	画室の自画像	1968	100.0×72.7	油彩・キャンバス

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	技法・素材
35	宮本三郎	海老	c. 1956	9.0×9.0	陶板画
36	脇田 和	赤い草つゆ	1986	91.0×72.8	油彩、コラージュ・キャンバス
37	糸園和三郎	四つのビルディング	1974	130.0×97.0	油彩・キャンバス
38	糸園和三郎	夫人像	1973	45.7×38.0	油彩・キャンバス
39	香月泰男	雲	1972	91.0×60.7	油彩・キャンバス
40	香月泰男	道路標識のある風景		64.7×45.7	油彩・キャンバス
41	高田 誠	雪国早春	1961	89.4×145.5	油彩・キャンバス
42	鴨居 玲	勲章	1985	116.7×72.7	油彩・キャンバス
43	鴨居 玲	教会 スペインB	1973	91.0×73.0	油彩・キャンバス
44	平野 遼	風景	1992	130.6×162.0	油彩・キャンバス
45	平野 遼	逃げる一団	1972	160.0×130.0	油彩・キャンバス
46	木村忠太	自画像	1974	100.0×100.0	油彩・キャンバス
47	島田章三	ミート・ショップ	1982	162.3×130.0	油彩・キャンバス
48	奥谷 博	阿修羅	1998	130.7×162.2	油彩・キャンバス
49	工藤和男	群	1974	160.0×130.0	油彩・キャンバス
50	工藤和男	琉球の舞	1993	160.0×130.0	油彩・キャンバス
51	今永清玄	破壊者-3	1994	193.9×162.1	油彩・キャンバス
52	今永清玄	幸運な兵士	1992	145.0×112.0	油彩・キャンバス
53	絹谷幸二	愛うつろい	1987	130.5×162.0	油彩・キャンバス
54	開 光市	ノクターン	1999	84.3×120.8	油彩・キャンバス
55	渡邊榮一	<デューラーのメランコリアと一本のビュランで僕の制作が始まった。その制作が、いつかはボルネスのメランコリアの渦に一本の面相筆と消えてゆくことをねがう。>	2009	15.0×10.0他	油彩・紙他
56	渡邊榮一	寓話「鳥たちが目覚めても人間のからくりはもとより、ゆめのからくりすら見る事はかなわなかった。」	2009	90.9×65.2	油彩・キャンバス
57	渡邊榮一	小さな王国<クレタ島の砂丘は、恐らく、ミノタウロスの迷宮に続いているのだ。>	2008	45.5×38.0	クレパス・紙
58	渡邊榮一	これは、もう一つのボール紙の祭礼である。	2009	62.0×47.0×16.0他	コラージュ・紙他

3. 1. 9. 第 4 4 回 市美展 [公募展]

概 要 洋画・版画/日本画/書/写真/彫刻/工芸/デザインの 7 部門で作品公募を行い、
出品作品を企画展示室、ホワイエ、常設棟で展示し、広く市民に紹介した。

会 期 平成 22 年 3 月 5 日 (金) ~ 3 月 28 日 (日) 公開日数 21 日

主 催 大分市、大分市教育委員会、大分市美術展覧会運営委員会

後 援 大分県美術協会、アート・ブラザー、国際ソロプチミスト大分、大分合同新聞社、
NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、エフエ
ム大分、OCT 大分ケーブルテレコム

表 彰 式 3 月 14 日 午後 2 時 ~ 2 時 30 分

出品点数 557 点

観覧者数 6,365 人

観覧料 無料

関連記事 「7 部門の作品一堂に」 『大分合同新聞』 3 月 4 日
「555 点、意欲あふれる力作ズラリ」 『大分合同新聞』 3 月 6 日
「大分市美展に 555 点」 『読売新聞』 3 月 12 日

(担当 岩尾)

3. 2. 常設展

3. 2. 1. 第1期常設展

平成21年4月21日（火）～7月12日（日）

（常設展示室2 前期：6月7日（日）まで・後期：6月9日（火）から）

■常設展示室1 近・現代の日本画 高山辰雄記念室

テーマ 東西の画壇

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
1	高山辰雄	鶉	1955	67.0×92.5	紙本着色	
2	橋本関雪	江城晚帰図	不詳	162.5×52.0	絹本着色	
3	福田平八郎	羅漢寺	1916頃	134.0×54.0	紙本着色	
4	福田平八郎	紅梅	1941頃	54.5×39.2	紙本着色	
5	福田平八郎	鮎	1958	48.5×75.5	紙本着色	寄託品
6	横山大観	後赤壁	1902	167.3×70.7	絹本着色	
7	高山辰雄	湯泉	1934	244.0×187.0	絹本着色	(財)大分県教育 会館寄贈
8	高山辰雄	黒いもんぺ	1944	174.2×70.6	紙本着色	高山辰雄氏寄贈
9	高山辰雄	赤い服の女	1950	49.4×57.6	絹本着色	高山辰雄氏寄贈
10	高山辰雄	夕	1955	64.5×93.7	紙本着色	高山辰雄氏寄贈
11	高山辰雄	青い空	1957	41.2×57.9	紙本着色	高山辰雄氏寄贈
12	高山辰雄	山の音	1958	60.5×92.4	紙本着色	
13	高山辰雄	山	1959	43.4×57.0	紙本着色	高山辰雄氏寄贈
14	高山辰雄	花	1964	100.0×65.2	紙本着色	寄託品
15	高山辰雄愛用 筆・岩絵具・コンテ等					高山由紀子氏寄贈
16	高山辰雄	豊後里道に月を見る	2005	153.8×100.0	紙本金砂子墨画	
17	高山辰雄	少女	1992	100.0×75.5	紙本着色	
18	高山辰雄	丘の上	1973	134.0×215.0	紙本着色	
19	高山辰雄	雲煙に飛翔	2001	174.2×727.2	紙本金砂子墨画	
20	大森運夫	ロマネスクの祭壇	1969	52.2×71.8	紙本着色	高山淳吉氏寄贈
21	土屋礼一	沼	1991	175.0×220.0	紙本着色	
22	平山郁夫	緑韻富貴寺	1997	169.2×361.6	紙本着色	
23	伊藤深游木	流れる	1991	220.0×161.0	紙本着色	
24	後藤純男	北国山頂	1963頃	72.8×91.0	紙本着色	
25	千住 博	ホーラ (Horus)	1991	162.1×227.3	紙本着色	
26	田淵俊夫	刻	1992	338.0×165.0	紙本着色	
27	岩澤重夫	響	1988	191.0×168.0	紙本着色	
28	岩澤重夫	由布岳	不詳	65.0×91.0	紙本着色	
29	福田平八郎	白梅	1923	145.6×42.5	絹本着色	
30	幸松春浦	雨情	1954	136.0×123.5	紙本着色	
31	首藤雨郊	秋庭	1938	160.8×186.2	絹本着色	
32	竹内浩一	唯	1993	各160.0×420.0	紙本着色	
33	上村淳之	月の水辺	1990	146.0×227.0	紙本着色	
34	上村淳之	風渡る	1992	160.0×228.0	紙本着色	

35	正井和行	雨後	1997	210.0×140.0	紙本着色	
36	渡辺信喜	林檎	1985	167.5×184.6	紙本着色	
37	箱崎睦昌	冬山	1984	182.0×195.0	紙本着色	
38	福田平八郎	鯉	1943頃	48.0×72.0	絹本着色	
39	福田平八郎・ 金島桂華	無花果 紅葉	1940代後半	縦24.5上弦50.5	紙本着色	個人蔵
40	福田平八郎	水仙	不詳	31.0×24.5	紙本着色	個人蔵
41	福田平八郎	紋鷄	不詳	30.0×23.0	紙本着色	個人蔵
42	富田溪仙	歳寒四友	不詳	137.0×35.0	紙本着色	
43	福田平八郎	紅白梅	1940代後半	31.5×48.5	紙本着色	
44	金島桂華	芥子	不詳	46.0×53.0	紙本着色	藤原文子氏寄贈
45	南 聡	大潮	1996	180.0×360.0	紙本着色	
46	露木恵子	雲に乗って(鉦豆)	2008	194.0×162.0	紙本着色	露木恵子氏寄贈

■常設展示室2 近世の絵画・南画（文人画） 富春館記念室

テーマ展示（前期）帆足杏雨

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
1	帆足杏雨	清溪書屋図	1829	109.2×38.5	紙本墨画淡彩	
2	帆足杏雨	四時花鳥図巻	1830	18.3×148.0	紙本墨画淡彩	帆足市太氏寄贈
3	帆足杏雨	山静日長図	1831	102.2×42.6	絹本墨画淡彩	寄託品
4	帆足杏雨	梅溪曉艫図	1834	158.5×45.0	紙本墨画淡彩	
5	帆足杏雨	浅絳山水図	1835	123.0×50.5	絹本墨画淡彩	
6	帆足杏雨	松陰自適図	1837頃	143.3×52.0	紙本墨画淡彩	帆足市太氏寄贈
7	帆足杏雨	設色花鳥図	1841	115.8×35.5	絹本墨画着色	
8	帆足杏雨	風雨渡航図	1845	147.8×40.5	紙本墨画淡彩	
9	帆足杏雨	老圃秋容図	1848	154.8×57.2	絹本墨画着色	
10	帆足杏雨	南山松柏図	1851	130.2×50.4	絹本墨画淡彩	
11	帆足杏雨	曲水流觴巻	1851頃	23.4×168.1	絹本着色	帆足市太氏寄贈
12	帆足杏雨	松竹梅書画貼交屏 風（一双のうち）	1864	各141.6×326.6	紙本墨画・紙本 墨書	帆足市太氏寄贈
13	帆足杏雨	峻嶺飛泉図・霜林 晚靄図	1865	各173.0×52.0	絹本墨画淡彩・ 絹本墨画	
14	田能村竹田・ 帆足杏雨	書状	1825他	24.3×614.8	紙本墨書	重要文化財
15	田能村竹田	秋溪間適図	1832	176.4×48.0	紙本淡彩	重要文化財
16	高橋草坪	鉄騎横行図	江戸時代後期	33.0×26.0	板 墨画淡彩	帆足市太氏寄贈
17	篠崎小竹	篠崎小竹咏史	江戸時代後期	143.9×57.3	紙本墨書	帆足市太氏寄贈
18	頼山陽	頼山陽詩書	1829	130.9×37.2	絹本墨書	帆足市太氏寄贈
19	浦上春琴	花鳥図	1829	130.9×37.2	絹本着色	帆足市太氏寄贈
20	中林竹洞	烟江疊嶂図	1829	130.9×37.2	絹本墨画	帆足市太氏寄贈

テーマ (後期) 生誕200年 平野五岳Ⅲ

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
	(資料)	平野五岳七十歳肖像	1903		絹本印刷	
1	平野五岳	松谿書屋図	1854	145.5×38.4	絹本墨画淡彩	
2	平野五岳	春山溪閣図	1856	114.1×36.0	絹本墨画淡彩	
3	平野五岳	溪閣読書図	1857	183.1×48.3	紙本墨画	
4	平野五岳	暮山竹林図	1860	139.0×45.0	紙本墨画	
5	平野五岳	松林山水図	1861	127.7×41.9	絹本墨画淡彩	
6	平野五岳	白雲紅樹図	1862	125.2×41.7	絹本墨画淡彩	
7	平野五岳	雪中山水図	1867	174.5×67.0	絹本墨画	
8	平野五岳	柳陰帰漁図	1871頃	147.0×51.5	絹本墨画淡彩	
9	平野五岳	松林山水図	1872	159.0×52.0	絹本墨画	
10	平野五岳	月下孤蓬図	1876	142.8×41.9	絹本墨画淡彩	
11	平野五岳	松林山水図	1880	151.2×60.0	絹本墨画	
12	平野五岳	富嶽図	1880	167.3×83.4	絹本墨画	
13	平野五岳	松竹梅図	1882	134.0×56.0	絹本墨画淡彩	
14	平野五岳	雪仏図	1882頃	131.4×50.6	絹本墨画	
15	平野五岳	翠巖飛泉図 (対幅)	1884	各225.1×50.9	絹本墨書・絹本墨画	
16	田能村竹田	四季花鳥図 (夏図)	1809	130.2×60.7	絹本着色	重要文化財
17	帆足杏雨	秋景山水図	1837頃	128.0×59.2	紙本淡彩	

■常設展示室3 近代・現代の洋画

テーマ 大分の美術グループの作家たち

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
1	油野誠一	デソリヤの街	1953	181.8×259.1	油彩・キャンバス	油野誠一氏寄贈
2	神田千里	風吹く日	1954	90.9×65.2	油彩・キャンバス	神田昌子氏寄贈
3	神田千里	連鎖する形	1982	112.1×145.5	油彩・キャンバス	
4	広瀬通秀	モニュメント	1980	181.8×227.3	油彩・キャンバス	
5	広瀬通秀	みのりA	1949	116.7×90.9	油彩・キャンバス	広瀬通秀氏寄贈
6	菅久 透	崇高	1969	65.0×65.0	油彩・キャンバス	菅久氏寄贈
7	脇正人	家	1958	80.3×116.7	油彩・キャンバス	脇正人氏寄贈
8	脇正人	作品C	1970	112.1×145.5	油彩・キャンバス	脇正人氏寄贈
9	脇正人	89作品(6)	1990	130.0×130.0	油彩・キャンバス	脇正人氏寄贈
10	脇正人	コンポジションB	1986	145.5×112.1	油彩・キャンバス	
11	脇正人	1996(A)	1996	130.3×130.3	油彩・キャンバス	脇正人氏寄贈
12	菅久	夕紅	2001	181.8×227.3	油彩・キャンバス	
13	菅久	作品A(黒い花)	1953	60.6×45.5	油彩・キャンバス	菅久氏寄贈
14	菅玲子	行水	1955	80.3×60.6	油彩・キャンバス	菅玲子氏寄贈
15	菅玲子	バスストップ	1976	162.1×130.3	油彩・キャンバス	
16	矢岡勲	車による(A)	1962	162.1×130.3	油彩・キャンバス	矢岡勲氏寄贈
17	江藤明	MY SPACE	1981	194.0×194.0	油彩・キャンバス	

18	井上佐之助	マイスペース 79	1979	43.8×62.8	紙版	首藤政美氏寄贈
19	井上佐之助	マイスペース 80	1980	45.0×63.5	段ボール版	首藤政美氏寄贈
20	新名隆男	風景	2004	70.0×40.0×20	アクリル	新名隆男氏寄贈
21	児玉成弘	街角 1987-1	1987	181.8×227.3	油彩・キャンパス	児玉成弘氏寄贈
22	十時 良	地表の風 94-6	1994	162.1×162.1	木炭・和紙・アル ミホイル他	十時良氏寄贈
23	三浦 勉	荊の塔	1958	150.3×61.0	油彩・板	三浦勉氏寄贈
24	渡辺恭英	莫	2000	192.5×222.5	アクリル・板	渡辺恭英氏寄贈

■常設展示室 4 竹工芸

テーマ 竹のある情景

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
1	生野祥雲斎	重扇吊華籃	1962頃	高30.8 32.0 ×15.0	竹、籐	
2	生野祥雲斎	紫竹盛籃銘此君	1965頃	高16.0 40.0 ×26.4	竹、籐	
3	生野祥雲斎	紫竹荒編華籃久寿玉Ⅰ	1964	高43.0 径 63.0	竹、籐	
4	生野祥雲斎	紫竹荒編華籃久寿玉Ⅱ	1964	高43.0 径 63.0	竹、籐	
5	生野祥雲斎	紫竹荒編華籃久寿玉Ⅲ	1964	高43.0 径 63.0	竹、籐	
6	安倍 基	波の光	2002	103.0×74.0	竹、木	
7	生野徳三	水煙	2001	高56.0 径 36.0	竹、籐	
8	下田和泉	風炉先屏風「重ね菱」	1990	39.0×186.0× 4.5	竹、木	

3. 2. 2. 第2期常設展

平成21年9月25日～平成22年1月12日

(常設展示室2 前期：11月15日(日)まで、後期：11月17日(火)から)

■常設展示室1 近・現代の日本画 高山辰雄記念室

テーマ 大分の近代日本画—明治から昭和前期を中心に— (常設展示室1・2)

1. 平八郎と高山辰雄 そして終後へ

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・素材	備考
1	松本古村・ 福田平八郎他	十四花草果菜の図	1922	51.8×180.0	絹本着色	大分市立荷揚町小学校蔵
2	福田平八郎	羅漢寺	1916頃	134.0×54.0cm	紙本着色	
3	福田平八郎	竹	1942頃	縦26.3上弦51.5	紙本着色	個人蔵
4	福田平八郎	鯉	1943頃	48.0×72.0	絹本着色	
5	福田平八郎	鮎	不詳	26.2×23.6	紙本着色	
6	福田平八郎	冬日	1945頃	39.5×53.5	紙本着色	
7	福田平八郎	蜜柑	1956頃	45.5×60.6	紙本着色	
8	福田平八郎	桃	不詳	29.6×37.5	紙・パステル	個人蔵
9	福田平八郎	水仙	不詳	31.0×24.5	紙本着色	個人蔵
10	高山辰雄	唐詩選 鹿柴	1968	画35.5×54.5 書55.8×38.0	リトグラフ	
11	高山辰雄	唐詩選 旅夜書懷	1968	画33.8×52.5 書55.8×38.0	リトグラフ	
12	高山辰雄	唐詩選 西宮秋怨	1968	画36.0×54.0 書55.8×38.0	リトグラフ	
13	高山辰雄	唐詩選 玉華宮	1968	画36.3×54.3 書55.8×38.0	リトグラフ	
14	高山辰雄	唐詩選 黃鶴樓	1968	画36.3×54.3 書55.8×38.0	リトグラフ	
15	高山辰雄	唐詩選 送人還京	1968	画33.5×51.8 書55.8×38.0	リトグラフ	
16	高山辰雄愛用	筆・岩絵具・コンテ等				高山由紀子氏寄贈
17	高山辰雄	紫陽花の頃	1941	125.0×41.0	絹本着色	
18	高山辰雄	立春	1937	42.8×56.8	絹本着色	高山辰雄氏寄贈
19	高山辰雄	壺	1943	129.9×75.9	紙本着色	高山辰雄氏寄贈
20	高山辰雄	白鷺	1939頃	各167.7×371.4	紙本墨画	
21	高山辰雄	坂道	1948頃	47.8×51.0	絹本着色	
22	高山辰雄	冬瓜	1952	51.5×70.0	絹本着色	
23	高山辰雄	赤いセーター	1952	70.5×57.1	絹本着色	高山辰雄氏寄贈
24	高山辰雄	赤い服の女	1950年	122.2×75.0	絹本着色	高山辰雄氏寄贈
25	高山辰雄	子	1950	122.2×75.0	絹本着色	高山辰雄氏寄贈
26	高山辰雄	夕	1951	69.5×87.8	絹本着色	
27	高山辰雄	沼にうつる	1955	48.5×72.6	紙本着色	高山辰雄氏寄贈
28	高山辰雄	朝	1973	60.6×90.9	紙本着色	個人蔵
29	幸松春浦	雨情	1954	136.0×123.5	紙本着色	
30	幸松春浦	小禽図	不詳	48.8×54.1	紙本着色	橋本祥案氏寄贈

31	正井和行	魼	1971	161.0×220.0	紙本着色	
32	正井和行	発掘	1992	190.0×160.0	紙本着色	
33	岩澤重夫	山麓	不詳	46.0×50.0	絹本着色	藤原文子氏寄贈
34	朝倉 撰	婦人像	不詳	40.0×30.0	麻本着色	

2. 江戸時代末～昭和戦前期 大分の南画家達

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・素材	備考
35	田能村竹田	四季花鳥図 (夏図)	1809	130.2×60.7	絹本着色	～11月15日まで
35	田能村竹田	四季花鳥図 (秋図)	1809	130.2×60.7	絹本着色	11月17日～
36	帆足杏雨	秋景山水図	天保年間	128.0×59.2	紙本墨画淡彩	
37	帆足杏雨	粉團鳳仙戯鳥図	江戸時代後期	147.2×57.1	紙本着色	重要文化財 ～11月15日まで
37	帆足杏雨	梅花山茶花群雀図	江戸時代後期	147.2×57.1	紙本着色	重要文化財 11月17日～
38	甲斐虎山	高松雙露図	不詳	180.8×94.6	紙本着色	
39	加納雨篷	淡彩山水図	1925	155.8×36.2	絹本墨画淡彩	
40	白須心華	春景山水	1913	135.5×51.0	絹本着色	藤原文子氏寄贈
41	田能村直入	花卉図 (紅梅)	1933	107.5×31.0	紙本墨画淡彩	帆足市太氏寄贈
42	田能村直入	瀛州図	1838	40.1×227	紙本墨画	寄託品
43	田能村直入	四季山水図 (棕湖秋月)	1884	196.5×84.8	紙本着色	
44	秦 米陽	寒林独坐図	1927	128.0×42.0	絹本着色	浦邊宗紀氏寄贈
45	田近竹邨	寒柯帰漁図	1921	128.5×88.5	絹本墨画淡彩	
46	田近竹邨	題石図・樹下一夢図 屏風	1897	各173.5×185.6	紙本着色	帆足市太氏寄贈
47	田近竹邨	松林飛鶴図	1896	128.0×42.5	紙本着色	
48	田近竹邨	桐陰遺興図	1917	170.0×52.0	絹本着色	藤原文子氏寄贈
49	草刈樵谷	春山烟雨図	不詳	135.0×33.0	紙本着色	藤原文子氏寄贈
50	草刈樵谷	竹田荘雅会図	1948	22.6×117.6	紙本着色	
51	幸松春浦	牧童吹笛図	1930年代	84.8×99.8	絹本着色	
52	幸松春浦	深山雲烟図	1930年代	84.5×99.8	絹本墨画淡彩	
53	幸松春浦	雨後鷓鴣図	1927	142.5×51.5	絹本着色	
54	幸松春浦	老子	1936	237.2×117.0	紙本墨画淡彩	
55	河村李軒	疎林秋晚図	1945頃	45.0×51.4	絹本着色	浦邊宗紀氏寄贈
56	幸松春浦	江南晚秋図屏風	1920	各137.6×354.2	紙本着色	

■常設展示室2 近世の絵画・南画 (文人画) 富春館記念室

テーマ 大分の近代日本画—明治から昭和前期を中心に— (常設展示室1・2)

3. 大正期～昭和戦前期 大分中学・大分県師範学校等ゆかりの作家達

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・素材	備考
57	松本古村	山中高士図	不詳	128.5×50.5	絹本着色	浦邊宗紀氏寄贈
58	松本古村	風雨渡船図	1930	154.0×145.5	絹本着色	

59	高倉観崖	長江春嵐・空山凍雲	1936	各143.0×28.0	絹本墨画淡彩	
60	牧 皎堂	鶴	不詳	111.0×40.6	絹本着色	
61	福田平八郎・高倉観崖・牧皎堂	漁村珍味之図	大正時代後期	147.0×42.6	絹本着色	
62	首藤雨郊	山村の冬	大正～昭和初期頃	129.7×42.2	絹本着色	個人蔵
63	首藤雨郊	村の秋晴れ	1930	227.0×186.0	紙本着色	首藤晃氏寄贈
64	首藤雨郊	稚児焚火図	1936	135.3×166.1	紙本着色	個人蔵
65	首藤雨郊	夢中間答	1937	54.4×34.0	紙本着色	個人蔵
66	福田平八郎	蜜柑の花	1937	21.0×33.8	紙本着色	個人蔵
67	本廣 禮	水辺風景	不詳	135.3×166.1	紙本着色	個人蔵
68	松永冠山、小林観爾、福田平八郎	果菜図	1921頃	120.0×40.6	絹本着色	
69	福田平八郎	白梅	1923	145.6×42.5	絹本着色	
70	福田平八郎	緑竹小禽	1926頃	126.7×30.8	紙本着色	寄託品
71	福田平八郎	猫	大正時代中期	115.8×55.7	絹本着色	個人蔵
72	福田平八郎	光雪	1933頃	134.5×42.0	紙本着色	
73	福田平八郎	鮎	1934頃	43.6×64.5	絹本着色	個人蔵
74	福田平八郎	鯉	1943頃	43.2×87.2	絹本着色	
75	福田平八郎	雉子	1938	134.0×42.2	絹本着色	
76	福田平八郎関連資料 装画本他					
77	首藤雨郊関連資料 下図・スケッチ類					

関連記事 「深いきずな 『31歳の死』本広礼に贈った作品公開」『大分合同新聞』夕刊 9月24日

「早世した安心院町の日本画家・本広礼 制作日誌見つかる」『大分合同新聞』夕刊 1月21日

■常設展示室3 近代・現代の洋画

テーマ 戦後大分の美術 新たな出発－権藤種男を中心に－

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・素材	備考
1	権藤種男	百合と蜻蛉	1926	27.0×24.0	紙本着色	個人蔵
2	権藤種男	金魚	1926頃	27.0×24.0	紙本着色	個人蔵
3	権藤種男	百合	1927	44.0×51.0	油彩・キャンバス	個人蔵
4	権藤種男	鮎	1927頃	23.0×51.0	油彩・板	個人蔵
5	権藤種男	魚	1929頃	27.0×24.0	紙本着色	個人蔵
6	権藤種男	チューリップ	1929頃	27.0×24.0	紙本着色	個人蔵
7	権藤種男	果物	1929頃	27.0×24.0	紙本着色	個人蔵
8	権藤種男	河豚	1929	27.0×24.0	紙本着色	個人蔵
9	権藤種男	桜並木	1930	45.0×58.0	油彩・キャンバス	個人蔵
10	権藤種男	牡丹	1930	15.0×21.5	油彩・紙	個人蔵
11	権藤種男	福寿草と水仙	1932	27.0×24.0	紙本着色	個人蔵
12	権藤種男	親子	1932	27.0×24.0	紙本着色	個人蔵
13	権藤種男	母子	1935	27.0×24.0	紙本着色	個人蔵
14	権藤種男	女性像	1936	27.0×24.0	紙本着色	個人蔵

15	榎藤種男	鮎	1936頃	27.0×24.0	紙本着色	個人蔵
16	榎藤種男	静物	1941	27.0×24.0	紙本着色	個人蔵
17	榎藤種男	女性像	1941	27.0×24.0	紙本着色	個人蔵
18	榎藤種男	牡丹と蝶	1941頃	27.0×24.0	紙本着色	個人蔵
19	榎藤種男	瓦礫の街	1945頃	28.5×37.5	油彩・キャンバス	宮本克子氏寄贈
20	榎藤種男	高崎山遠望	不詳	27.0×38.0	油彩・キャンバス	
21	榎藤種男	女性像	1947頃	32.0×22.5	油彩・板	
22	榎藤種男	鯉	1950頃	115.0×33.0	紙本着色	
23	榎藤種男	遊鯉	不詳	65.0×80.0	油彩・キャンバス	
24	後藤真吉	高崎山	不詳	41.5×53.0	水彩・和紙	橋本祥案氏寄贈
25	江藤純平	斜陽	1941	73.0×91.0	油彩・キャンバス	江藤クニ子氏寄贈
26	江藤純平	秋果図	1949頃	36.0×56.0	油彩・キャンバス	江藤クニ子氏寄贈
27	佐藤 敬	肖像A	1946	73.0×53.0	油彩・キャンバス	
28	佐藤 敬	Ado in Beppu	1946	60.6×45.5	油彩・キャンバス	
29	佐藤 敬	枯葉	1946	73.0×53.0	油彩・キャンバス	
30	佐藤 敬	眞弓	1947頃	40.0×31.0	油彩・キャンバス	
31	佐藤 敬	美子	1950頃	22.0×22.0	インク、パステル・紙	
32	佐藤 敬	眞弓	1947頃	24.5×16.5	水彩、墨・紙	
33	糸園和三郎	鳥の壁	1963	72.7×60.6	油彩・キャンバス	
34	糸園和三郎	二本の木	1965	62.0×53.0	油彩・キャンバス	
35	仲町謙吉	きものの女	1961	162.1×130.3	油彩・キャンバス	
36	熊井 惇	扇持つ少女	1951	116.7×91.0	油彩・キャンバス	熊井恭子氏寄贈
37	熊井 惇	楽暫閑	1948	91.0×116.7	油彩・キャンバス	熊井恭子氏寄贈
38	広瀬通秀	みのり(B)	1949	116.7×90.9	油彩・キャンバス	個人蔵
39	岩尾秀樹	街(赤い建物)	1951	90.9×116.7	油彩・キャンバス	個人蔵
40	多邨 常	酢屋の坂	1989	163.0×112.5	油彩・キャンバス	多村裕子氏寄贈
41	多邨 常	朝陽	1993	130.5×162.0	油彩・キャンバス	多村裕子氏寄贈

■常設展示室4 竹工芸

テーマ展示 竹の表現

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・素材	備考
1	生野祥雲齋	波紋	1965頃	78.0×138.8×7.4	竹、籐	
2	生野祥雲齋	白竹投入華籃	1965頃	高41.0 径16.5	竹	
3	此君亭工房	竹干菓子盆	1974	15.3×13.2	竹	
4	生野祥雲齋	はなころも	1965頃	高28.3 径9.0	竹	
5	此君亭工房	七宝紋こっぷ受	昭和後期	高1.5 径6.8	竹、籐	
6	生野祥雲齋	白竹水月吊花籃	1961頃	高21.0 42.0 ×15.0	竹、籐	
7	生野徳三	白竹の籠「海宇」	1998	高26.0 径54.0	竹、籐	
8	生野祥雲齋	手付果物籃	1956頃	高22.0 34.5 ×20.7	竹、籐	
9	生野祥雲齋	無双編盛籃	1963	高9.0 径30.0	竹	

3. 2. 3. 第3期常設展

平成22年1月13日（火）～4月18日（日）

（常設展示室2 前期：2月21日（日）まで・後期：2月23日（火）から）

■常設展示室1 近・現代の日本画 高山辰雄記念室

テーマ展示 大画面への挑戦

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
1	岩澤重夫	由布岳	不詳	65.0×91.0	紙本着色	
2	福田平八郎	池辺游魚	1923頃	140.5×41.5	絹本着色	
3	福田平八郎	藪椿に鶯	1936	27.0×69.0	紙本着色	
4	福田平八郎	真鯉	1943頃	43.2×87.2	絹本着色	寄託品
5	福田平八郎	紅梅	1941頃	54.5×39.2	紙本着色	
6	福田平八郎	紅白梅	1940代後半	31.5×48.5	紙本着色	
7	福田平八郎	桃	1947～50頃	32.0×42.2	紙本着色	
8	福田平八郎	鮎	1950	42.0×56.0	絹本着色	
9	高山辰雄	筍	1947	44.1×51.5	紙本着色	高山辰雄氏寄贈
10	高山辰雄	黒い服の少女	1948	57.5×53.5	絹本着色	
11	高山辰雄	襟巻	1949	51.2×59.0	絹本着色	高山辰雄氏寄贈
12	高山辰雄	青い空	1957	41.2×57.9	紙本着色	高山辰雄氏寄贈
13	高山辰雄	雪	1954	66.0×87.5	絹本着色	
14	高山辰雄	突りの時	1950代後半	41.0×59.2	紙本着色	
15	高山辰雄	道	1961	45.5×60.6	紙本着色	
16	高山辰雄愛用遺品 スケッチブック等					高山由紀子氏寄贈
17	高山辰雄	朱樂	1952	40.1×57.1	絹本着色	高山辰雄氏寄贈
18	高山辰雄	山の音	1962	60.5×92.4	紙本着色	
19	岩澤重夫	郷	1987	191.0×180.0	紙本着色	
20	岩澤重夫	響	1988	191.0×168.0	紙本着色	
21	岩澤重夫	清秋	1999	200.0×175.0	紙本着色	岩澤重夫氏寄贈
22	岩澤重夫	輝やく峰	1998	220.0×145.0	紙本着色	
23	伊藤深游木	流れる	1991	220.0×161.0	紙本着色	
24	平山郁夫	緑韻富貴寺	1997	169.2×361.6	紙本着色	～4月5日(月)まで
24	伊藤彰耳	怡色	1995	180.0×360.0	紙本着色	4月7日(水)～
25	荒井 孝	懸空寺	1985	168.5×214.5	紙本着色	
26	正井和行	憶昔	1992	65.2×90.9	紙本着色	正井和行氏寄贈
27	箱崎睦昌	桜島	1988	210.0×560.0	紙本着色	
28	森田曠平	立木観世音	1988	205.0×250.0	紙本着色	
29	中野嘉之	奥入瀬- (霜月)	1991	各175.8× 352.0	紙本着色	
30	畠中光享	林住禅定	2003	171.5×464.0	絹本墨画・裏箔	
31	下保 昭	知床染雨	1997	各168.0× 372.0	紙本着色	
32	宮崎喜恵	磨崖の佛さん	1999	160.5×110.5	画布着色	
33	首藤詔子	絵巻に偲ぶ	1985	162.1×130.3	紙本着色	首藤詔子氏寄贈

■常設展示室2 近世の絵画・南画（文人画） 富春館記念室

テーマ展示 田能村竹田

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
1	作者不詳	田能村竹田像	不詳	24.0×18.4	絹本淡彩	
2	田能村竹田	書（端歌）	不詳	43.0×18.5	紙本墨書	
3	田能村竹田	梅花図（花卉図六幅対の内）	1808	115.7×38.8	紙本墨画淡彩	重要文化財
4	田能村竹田	四時花鳥図（四幅対の内冬図）	1809	130.2×60.7	絹本着色	重要文化財
5	田能村竹田	疎林溪閣図	1821	128.5×46.0	紙本墨画淡彩	
6	田能村竹田	鍾馗図	1822	97.0×27.3	紙本墨画淡彩	
7	田能村竹田	伏水望京図	1823	107.2×26.4	紙本墨画	
8	田能村竹田	梅花書屋図及題詩（対幅）	1824	各112.5×30.5	紙本墨画淡彩・紙本墨書	重要文化財
9	田能村竹田	松鶴図（四面）	1828頃	各51.7×44.6	絹本着色	重要文化財
10	田能村竹田	暗香疎影図	1831	136.0×57.0	紙本墨画淡彩	重要文化財
11	田能村竹田	白衣大士図	1830～32頃	91.7×25.5	紙本墨画淡彩	
12	田能村竹田	西行法師図	1832頃	91.6×24.3	紙本墨画	
13	田能村竹田	澗道石門図	1834	154.0×66.6	絹本着色	重要文化財
14	田能村竹田	秋溪趁約図	1834	154.0×66.6	紙本墨画淡彩	重要文化財
15	田能村竹田	漁樵問答図	1834	128.5×50.3	絹本淡彩	重要文化財
16	田能村竹田	浄土寺図	1834	19.2×35.8	紙本淡彩	重要文化財
17	田能村竹田	盆卉図	1833	29.3×30.8	紙本墨画淡彩	重要文化財
18	田能村竹田	騎馬武者図	江戸時代後期	38.5×29.0	紙本淡彩	重要文化財
19	田能村竹田他	五言古詩	1831	98.7×51.3	紙本墨書	重要文化財
20	田能村竹田 末広雲華	対聯（対幅）	1832	各111.7×13.0	紙本墨書	重要文化財
21	伝田能村竹田	蝶図	不詳	20.2×26.3	絹本墨画	
22	田能村竹田・他	書簡集	1835・他	（縦）16.2	紙本墨書	寄託品

■常設展示室2 近世の絵画・南画（文人画） 富春館記念室

テーマ展示 屏風絵

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
1	作者不詳	洛中洛外図屏風	1640頃	各108.5×273.0	紙本金地着色	
2	狩野永伯	松竹梅に鶴図屏風	江戸時代後期	各171.5×379.4	紙本金地着色	帆足市太氏寄贈
3	作者不詳	源平合戦図屏風	江戸時代後期	159.3×374.2	紙本着色	帆足市太氏寄贈
4	田能村竹田	月下芦雁図	1823	149.7×330.4	紙本墨画	重要文化財
5	帆足杏雨	松竹梅書画貼交屏風	1864	141.6×326.6	紙本墨画・紙本墨書	帆足市太氏寄贈

■常設展示室3 近代・現代の洋画

テーマ展示 海外へ旅立った作家たち—佐藤敬を中心に—

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
1	藤島武二	大洗海岸	1931	73.0×91.0	油彩・キャンバス	
2	藤田嗣治	佐藤敬・美子	1944頃	18.5×21.5	紙本淡彩	
3	佐藤 敬	Notre Dame du Paris	1932	54.0×64.0	油彩・キャンバス	
4	佐藤 敬	暁	1940	130.5×193.6	油彩・キャンバス	
5	佐藤 敬	三人の家族	1940	145.5×112.1	油彩・キャンバス	
6	佐藤 敬	少女半身	1940	72.5×53.1	油彩・キャンバス	
7	佐藤 敬	雨期来る (マニラ)	1942	31.0×41.0	油彩・キャンバス	
8	佐藤 敬	印度少女	1943	72.5×53.2	油彩・キャンバス	岸井眞弓氏寄贈
9	佐藤 敬	セーヌの橋	1947頃	41.0×32.0	油彩・キャンバス	
10	佐藤 敬	裸婦	1952	73.0×91.0	油彩・キャンバス	
11	佐藤 敬	オテル・ド・ヴィル (巴里)	1956	32.0×41.0	グワッシュ、パステル・紙	
12	佐藤 敬	罨	1961	92.0×73.0	油彩・キャンバス	
13	佐藤 敬	石の花	1960	59.4×29.3	油彩・キャンバス	
14	川端 実	門のイメージ 緑	1989	213.5×168.0	アクリル・キャンバス	
15	菅井 汲	SIGNAL DU CIEL (空の標識)	1971	175.0×142.0	アクリル・キャンバス	
16	菅井 汲	寒流	1963	130.0×162.0	油彩・キャンバス	
17	菅井 汲	パーキングB	1969	250.0×200.0	油彩・キャンバス	
18	田淵安一	隠された樹	1981	200.0×200.0	油彩・キャンバス	
19	今井俊満	シメール	1959	130.0×191.0	油彩・キャンバス	
20	河原 温	印刷絵画—黒人兵植民地の怒り	1958	76.4×51.8	印画紙	
21	河原 温	印刷絵画—No.1 絵画と人間	1959	52.3×47.4	印画紙	
22	河原 温	印刷絵画—No.2 入れ墨	1959	52.3×47.5	印画紙	
23	草間弥生	ACCRETION (No.3)	1964	110.0×70.0	コラージュ	
24	草間弥生	生命への畏敬	1989	194.0×390.0	アクリル・キャンバス	
25	荒川修作	OUT OF WHICH	1979	76.6×122.5	リトグラフ・シルクスクリーン・空押し・紙	寄託品
26	鬮嘔	レインボーレイン	1976	192.0×259.0	アクリル・キャンバス	
34	南 聡	潮	1996	180.0×360.0	紙本着色	
35	鈴木忠実	飛翔	1993	162.1×262.0	紙本着色	
36	倉島重友	野の調	1989	182.0×227.0	紙本着色	

37	釘宮對岩	雪原の王者	1985	247.0×117.0	紙本墨画	
38	池田栄広	船出前	1986	176.0×221.0	紙本着色	
39	村田茂樹	樹間	1993	165.0×504.0	紙本着色	

■常設展示室4 竹工芸

テーマ展示 祥雲斎と弟子たち

No.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	備考
1	本田脚雲斎	篠竹荒編花籠「草垣」	1988	高25.0 径23.5	竹	
2	下田和泉	風炉先屏風「重ね菱」	1990頃	39.0×186.0×4.5	竹、木	
3	生野祥雲斎	怒涛	1960	53.0×53.0×73.0	竹、籐	
4	生野徳三	白竹の籠「海宇」	1998	高26.0 径54.0	竹、籐	第30回日展特選
5	田辺幸竹斎	櫛目組竹飾籠「宴」	2003	高43.0 径36.6	竹、籐	
6	安倍基楽	手付矢筈文盛籃「翼揚」	2002	高27.0 34.5 ×36.2	竹、籐	第37回西部工芸展 入賞
7	山口龍雲	花車	2002	高32.0 径53.0	竹、籐	

3.2.4. 常時展示作品

4つの常設展示室のほか、館内・館外の各所に彫刻などの作品を常時展示した。

NO.	作者	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法	場所
1	熊井恭子	風の道・水の道	2001	1200×660×560	ステンレス・スチール線	常設棟1・2F
2	田中信太郎	風の吹く場所	1992-93	193×361×16	強化プラスチック	常設棟1F
3	今井俊満	鯉のぼり-大分-	1987	200×1000	アクリル・キャンバス	常設展示室3
4	朝倉響子	Ashley (アシュリー)	2001	163×70×46	ブロンズ	エントランスホール
5	村井進吾	FORM-IV	1992	153×160×159	黒御影石	1F中庭
6	風倉 匠	陰陽学	2000	120×250×120	アルミ合金	企画棟屋上
7	剣持和夫	宇奈月	1993	30×30×800	ブロンズ	企画棟屋外
8	井上一朗	L-MOTION	2000	303×270×210	アルミニウム	企画棟屋外
9	安藤 泉	遊星散歩	1999	660×665×240	純銅板、鍛金	芝生広場
10	原口典之	重力	2003	79×286×800	厚鋼板・コンクリート	芝生広場
11	佐脇健一	BOLT DOG	2000	大 73×118×20 他	鉄	チャイルドハウス周辺
12	青木野枝	荒玉	2002	430×390×1740	鉄	散策路
13	朝倉文夫	あこがれ	1958	58×41×40	ブロンズ	企画棟ホワイエ
14	合田習一	WORK' 86-10	1986	182×27×24	木、石、銅線	常設棟1F
15	相武常雄	トルソ1	1995	161.5×95×41	銅	常設棟1F
16	相武常雄	トルソ2	1995	95×161.5×42	銅	常設棟1F

3. 3. サマー企画

3. 3. 1. アート・ワンダーランド2009「おおいた あーと選手権」

概要 アート・ワンダーランドは、美術館所蔵作品の中から、特に子どもに見せたい作品を選定し、わかりやすい解説やワークシート等を手がかりに美術鑑賞について興味・関心を持たせることを目的とした展覧会である。本年度は、地元大分が生んだ画家たちの名前や作品を知るとともに、大分の美術の流れを把握しながら、作品と対話し、新しい世界に触れてもらうことを目指した。

会期 平成21年7月14日(火)～9月23日(水)

後援 大分合同新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、エフエム大分、OCT 大分ケーブルテレコム

出品点数 83点

観覧者数 21,889人

観覧料 一般300(250)円／高大生200(150)円、中学生以下無料
※()内は20人以上の団体料金

関連行事 ■普及プログラム：技をぬすもう

日時 7月26日(日) 11:00～12:00 13:30～14:30

講師 県立芸術緑丘高校 汐月 顕氏(洋画)

観覧者 のべ168人

日時 8月9日(日) 11:00～12:00 13:30～14:30

講師 安倍 基氏(竹工芸)

観覧者 のべ158人

日時 8月23日(日) 11:00～12:00 13:30～14:30

講師 県美協常任委員 宮崎喜恵氏、日本画友の会の皆さん

観覧者 のべ296人

印刷物 ・ワークシートA3二つ折り 小学校低学年用16,000部、高学年16,000部、中学生用17,000部

関連記事 「アート・ワンダーランド」『大分合同新聞』夕刊 7月16日

(担当 嶋田)

目録

常設展示室 1

No.	作者名	作品名	制作年代	寸法 (cm)	素材・技法	備考
1	福田平八郎	水蜜桃	1950頃	31.0×42.1	紙本着色	
2	福田平八郎	桃	1947-50頃	32.0×42.2	紙本着色	
3	福田平八郎	白梅	不詳	26.3×23.4	紙本着色	
4	福田平八郎	紅蔦	不詳	106.0×27.0	紙本着色	
5	福田平八郎	鳳仙花	1947	31.0×43.0	紙本着色	
6	福田平八郎	紅葉	1950頃	50.0×67.4	絹本着色	
7	福田平八郎	池辺游魚	1923頃	140.5×41.5	絹本着色	
8	福田平八郎	白梅眼白	1940頃	45.0×65.0	紙本着色	9月15日まで展示
※	福田平八郎	鮎	1950	42.0×56.0	絹本着色	9月16日から展示
9	福田平八郎	藪椿に鸞	1936	27.0×69.0	紙本着色	
10	福田平八郎	雉子	1938	134.0×42.2	絹本着色	ワークシート作品
11	福田平八郎	白梅鶯	不詳	130.7×30.8	紙本着色	
12	福田平八郎	鯉	1943頃	48.0×72.0	絹本着色	
13	福田平八郎	黄鶺鴒	1950代	29.5×42.3	紙本着色	個人蔵
14	福田平八郎	暖冬	1950代	46.3×66.8	絹本着色	個人蔵
15	福田平八郎	静物	1917	縦23.0×上弦 53.5×下弦26.8	紙本着色	
16	福田平八郎	菓子	1948頃	27.0×24.0	紙本着色	
17	高山辰雄	豊山豊水	1985	35.0×65.0	紙本着色	ワークシート作品
18	高山辰雄	黒い服の少女	1948	57.5×53.5	絹本着色	
19	高山辰雄	椅子に	1990	116.0×87.5	絹本着色	9月15日まで展示
※	高山辰雄	子	1950	103.1×75.4	絹本着色	高山辰雄氏寄贈 9月16日から展示
20	高山辰雄	卵	1950頃	27.2×35.9	紙本着色	高山辰雄氏寄贈
21	高山辰雄	堇とコップ	1956	42.0×59.5	紙本着色	
22	高山辰雄	猫と玉葱	1957	55.6×77.1	紙本着色	高山辰雄氏寄贈
23	高山辰雄	明けゆく	1958	55.5×76.5	紙本着色	
24	高山辰雄	青の夜	1961頃	38.0×55.0	紙本着色	
25	高山辰雄	道	1961	45.5×60.6	紙本着色	
26	高山辰雄	風景	1955頃	38.4×61.0	紙本着色	高山辰雄氏寄贈
27	高山辰雄	燈	1985	211.5×139.5	紙本着色	9月15日まで展示
※	高山辰雄	豊後里道に月を見る	2005	153.8×100.0	紙本金砂子着色	9月16日から展示
28	高山辰雄	雪	1954	66.0×87.5	絹本着色	
29	高山辰雄	雨	2003	200.0×140.0	紙本着色	高山辰雄氏寄贈
30	高山辰雄	新雪	1992	224.0×160.0	紙本着色	高山辰雄氏寄贈
31	佐藤敬	暁	1940	130.5×193.6	油彩・キャンバス	
32	佐藤敬	雪	1938	193.0×124.0	油彩・キャンバス	
33	佐藤敬	独唱	1936	197.0×273.1	油彩・キャンバス	ワークシート作品

No.	作者名	作品名	制作年代	寸法 (cm)	素材・技法	備考
34	佐藤敬	月	1938	194.0×130.0	油彩・キャンバス	
35	佐藤敬	水の姿勢	1937	195.0×265.0	油彩・キャンバス	
36	佐藤敬	制作	1936	197.0×265.0	油彩・キャンバス	
37	佐藤敬	水災について	1939	197.0×268.0	油彩・キャンバス	
38	佐藤敬	ピアノと子供	1951	130.0×162.0	油彩・キャンバス	
39	佐藤敬	浴場	1951	130.0×160.0	油彩・キャンバス	
40	佐藤敬	LE DANS	1950	218.2×290.9	油彩・キャンバス	
41	ピカソ	女の顔	1952頃	高53.0径27.0	陶器	寄託品

常設展示室 2

No.	作者名	作品名	制作年代	寸法 (cm)	素材・技法	備考
42	田能村竹田	富士図	1819	127.0×42.0	絹本着色	8月18日まで展示
43	田能村竹田	漁樵問答図	1834	92.6×30.8	絹本淡彩	8月18日まで展示
※	田能村竹田	白鶴 図(二幅対)	1822	各164.3×41.5	絹本着色	8月19日から展示
44	帆足杏雨	月下竹梅図襖(四面)	江戸後期～明治初期	各173.5×72.3	紙本墨画金砂子	
45	帆足杏雨	李青蓮詩意山水図	1854	154.9×57.2	絹本墨画淡彩	8月18日まで展示
46	帆足杏雨	秋水野航図	1837頃	152.2×52.0	紙本墨画淡彩	8月18日まで展示
47	帆足杏雨	雪溪吟鞭図	1837頃	143.3×52.1	紙本墨画淡彩	8月18日まで展示
※	帆足杏雨	梅花山茶花群雀図	江戸後期	147.2×57.1	紙本墨画着色	8月19日から展示
※	帆足杏雨	風雨赴約図	1837頃	143.1×51.7	絹本墨画淡彩	8月19日から展示
※	帆足杏雨	巴峽蜀舩図	1837頃	143.1×51.7	紙本墨画淡彩	8月19日から展示
48	加納雨篷	淡彩山水図	1925	155.8×36.2	絹本墨画淡彩	
49	甲斐虎山	富岳瑞雲図	不詳	181.1×94.8	紙本着色	
50	田近竹邨	端午節句図屏風	1895	179.2×364.8	紙本墨画淡彩	
51	牧皎堂	鶴	不詳	111.0×40.6	絹本着色	
52	高倉観崖	遠山秋雨	1927	145.0×51.0	絹本着色	
53	幸松春浦	竹雀図	1929	各170.0×370.0	紙本銀地淡彩	六曲一双

常設展示室 3

No.	作者名	作品名	制作年代	寸法 (cm)	素材・技法	備考
54	佐藤敬	グワッシュ' 62	1962	24.0×31.0	グワッシュ・紙	
55	佐藤敬	空間の歴史(黒)	1965	162.3×130.2	油彩・キャンバス	
56	佐藤敬	夜は漂う	1963	53.0×65.0	油彩・キャンバス	
57	佐藤敬	凝結波	1966	195.0×130.0	油彩・キャンバス	
58	佐藤敬	空間の通力	1973	116.0×179.0	油彩・キャンバス	
59	佐藤敬	青のグワッシュ	1972	13.5×30.0	グワッシュ・紙	
60	佐藤敬	グワッシュ	1973	24.0×32.5	グワッシュ・紙	
61	佐藤敬	Gouache' 73	1973	24.0×31.5	グワッシュ・紙	
62	佐藤敬	墨彩	1978	48.0×28.0	グワッシュ、墨・紙	
63	佐藤敬	遥かなる時間	1978	51.0×33.0	グワッシュ、墨・紙	
64	佐藤敬	墨彩	1978	24.0×33.0	グワッシュ、墨・紙	

No.	作者名	作品名	制作年代	寸法 (cm)	素材・技法	備考
65	権藤種男	高崎山遠望	1950頃	27.0×38.0	油彩・キャンバス	
66	仲町謙吉	秋深し	2005	89.4×145.5	油彩・キャンバス	
67	仲町謙吉	咩	1992	116.7×91.0	油彩・キャンバス	
68	脇正人	家	1958	80.3×116.7	油彩・キャンバス	
69	脇正人	コンポジションB	1986	145.5×112.1	油彩・キャンバス	
70	広瀬通秀	モニュメント	1980	181.8 ×227.3	油彩・キャンバス	
71	吉村益信	CUT SEA	1973	72.8×100.0	油彩・キャンバス	
72	吉村益信	CUT SEA 3	1973-74	96.0×130.3	油彩・キャンバス	
73	脇坂秀樹	船がある	1965	97.0×162.0	油彩・キャンバス	
74	脇坂秀樹	残象	1964	130.0×162.0	油彩・キャンバス	
75	飯尾寿夫	植物 II	1972	162.0×130.0	油彩・キャンバス	

常設展示室 4

No.	作者名	作品名	制作年代	寸法 (cm)	素材・技法	備考
76	生野祥雲斎	白竹通筒華入	1955頃	高50.0 径6.3	真竹、籐	
77	生野祥雲斎	花衣華入	1965頃	高28.8 径8.6	真竹	
78	生野祥雲斎	紫竹盛華籃	1965頃	27.2×62.0× 30.0	黒竹	
79	生野祥雲斎	輪花永芳盛籃	1944	高14.0 径39.0	煤竹、籐	
80	生野徳三	水煙	2001	高55.5 径37.0	真竹、籐	
81	安倍基	盛籃「翼揚」	2002	27.0×34.5× 36.2	真竹、籐	
82	田辺信幸	篠竹つぶし花籠 「蹲」	2001	高34.0 径50.0	篠竹	
83	山口明	花車	2002	高32.0 径53.0	真竹、籐	

4. 教育普及事業

4. 1. ハイビジョンシステム

美術品の色や質感をより忠実に再現するハイビジョンを用い、所蔵品に関する静止画や動画番組等の美術情報を提供している。

4. 1. 1. ハイビジョン番組

■オリジナル静止画(ホール、ギャラリーI)

1	富春館の世界一帆足家をめぐると作品一	10分
2	水に描かれた福田平八郎の世界	7分
3	祥雲齋に見いだされた竹の造形美	7分
4	日本画 高山辰雄の世界一その作品と歩み一	6分
5	抽象絵画への招待	9分
6	大分の美術・日本画	8分
7	大分の美術・洋画	8分
8	浜田知明一眼に見えぬ鉄格子の中で一	6分
9	田能村竹田『桃花流水図』を読む	7分
10	ふるさとの風景・大分	7分
11	四季の趣 江戸絵画に見る	7分
12	写実と装飾の間で一福田平八郎一	7分
13	加納光於 版画の世界	7分

■オリジナル動画(ホール)

1	風光り水澄む郷・大分 高山辰雄画伯のふるさと	15分
2	1994 高山辰雄	30分
3	投華 密教に入る	15分
4	見えない鏡一洋画家・糸園和三郎の世界一	15分
5	竹をきわめる一生野祥雲齋一	15分
6	わが故郷・大分 日本画家 高山辰雄	19分

■静止画(ホール、ギャラリーII)

◎ハイビジョン美術館「美術のたのしみ」(各6分)

1	ひとの顔	6	いきものの姿
2	ひとのかたち	7	ものがたり
3	人々の暮し	8	木と草花
4	踊るひと	9	幻想 ファンタジー
5	暮らしの中の静物	10	いろとかたちのリズム

◎エルミタージュ美術館 I (各 6 分)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 華麗なる美の殿堂 | 6 イタリア・ルネサンスの精華 |
| 2 バロックの巨匠 レンブラント | 7 ヴェネツィアのルネサンス |
| 3 レンブラント 肖像画の世界 | 8 自然をみつめて |
| 4 レンブラント 聖書の世界 | —コローとバルビゾン派 |
| 5 ルネサンスの幕開け | 9 光と色彩の画家 モネ |
| | 10 印象派の人物画 |
| | —ルノワールと仲間たち |

◎エルミタージュ美術館 II (各 6 分)

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| 1 フランドル絵画の黄金期—
ルーベンスと弟子たち | 6 近代絵画の父 セザンヌ |
| | 7 楽園を求めて—ゴッホと
ゴッホ |
| 2 フランスの古典 プッサンとロラン | 8 パリの世紀末—ナビ派 |
| 3 市民絵画の誕生—17 世紀オランダ絵画 | 9 色彩への情熱—フォーブの画家 |
| 4 スペイン絵画の光と影 | 10 世紀の巨匠—ピカソ |
| 5 雅の極地—ロココ絵画 | |

◎オルセー美術館 I (各 7 分)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 印象派の殿堂 オルセー美術館 | 6 動きへの探究 ドガと踊り子たち |
| 2 リアリズムの巨匠 クールベ | 7 ヴァン・ゴッホ 炎の生涯 |
| 3 大地への讃歌 ミレー | 8 20 世紀芸術への架け橋 |
| 4 セーヌの光に魅せられて モネ | —ポンタヴェン派からナビ派へ |
| 5 光と大地の叙事詩 シスレーとピサロ | 9 20 世紀絵画の父 セザンヌ |

◎フィレンツェ・ルネサンス I (各 7~8 分)

- 1 ルネサンスの光と影 花の都フィレンツェ
- 2 フィレンツェの大きな屋根 建築家ブルネレスキの創造
- 3 ルネサンスへの扉 洗礼堂をめぐるコンクール
- 4 革新の波 ジョットからマザッチオへ
- 5 ルネサンスの遺産 ウフィッツィ美術館 I
- 6 ボッティチェリの春 ウフィッツィ美術館 II
- 7 フィレンツェの花形画家 ボッティチェリ
- 8 魂を刻みつづけて ミケランジェロ

◎ シカゴ美術館コレクション名作選 浮世絵 19 世紀と 20 世紀の美術

- | | |
|---------------------------|------|
| 1 浮世絵 春信・歌麿・写楽 | 9 分 |
| 2 浮世絵 北斎・広重 | 8 分 |
| 3 新しい自然の発見 —ロマン派からバルビゾン派へ | 10 分 |

4	光の讃歌～フランス印象派の華	11分
5	光と闇から後期印象派の精髓	14分
6	20世紀美術の曙	15分
7	アメリカ美術のメッセージ	13分

◎ 日本美術の至宝 日本の巨匠たち (各9～12分)

1	雪舟	6	池 大雅
2	狩野 永徳	7	与謝 蕪村
3	長谷川 等伯	8	浦上 玉堂
4	俵屋 宗達	9	円山 応挙
5	尾形 光琳	10	伊藤 若冲

4. 1. 2. ハイビジョンデータベース

タッチペンで所蔵品を検索でき、子どもから大人まで広く利用。作品のデータは、作家名・ジャンル・制作年代・出身地・おすすめ作品の5つのメニューから検索でき、作品の全図・拡大画像・作品解説・作家解説・用語解説などを画面上に呼び出すことができる。

4. 1. 3. 公開データベース数

719 作品 洋画(油彩、水彩) 124/日本画 235/現代美術 60/文人画(豊後南画) 112/
版画 99/工芸 39/彫刻 25/その他 25

4. 1. 4. ハイビジョン静止画工房

画像に文字情報や音声などを加えて編集し、番組を制作することができる。

4. 2. ハイビジョンシアター

展覧会に関するVTR等の上映を行った。

上映日時：毎週土・日・祝日 1日に3回【午前11時、午後1時、3時より】上映

場 所：ハイビジョンホール

料 金：無料

内容(上映ソフト)：世界の美術館や大分市ゆかりの作家に関する番組及び、大分市美術館制作オリジナル番組の中から、展覧会に合わせて選んだ4～5本の番組を、各回ごとに約40分上映。

4. 3. 芸術・文化に親しむ講座

ハイビジョンホール等の利用を進める中で、市民の生涯学習の場として、「芸術・文化に親しむ講座」を開講した。

	講座名	期日・場所	内容・講師	人数
1	ニットカフェat 美術館	12月5日 午後1時30分～午後4時30分 研修室	編み物実技とティータイム 講師：石井亜季氏	23
2	体験！ボディ・ パーカッション	1月9日 午後1時30分～午後3時30分 研修室	身体を叩いて音楽的表現能力 を養う 講師：山田俊之氏	29

4. 4. 実技講座

広く芸術・文化に親しむ場として、高い技術を持った地域の専門家の指導による実技講座を開講した。

No.	講座名	期日・場所	内容・講師	人数
1	色えんぴつ画入門	10月1日・3日 午後1時30分～午後4時30分 研修室	色えんぴつ画実技 講師：丸小野由美氏	19・19
2	水墨画入門	11月26日・27日 午前10時30分～午後3時30分 研修室	水墨画実技 講師：詫間夢鳳氏	15・15

4. 5. アートカレッジ

一般市民を対象に、美術への関心を深めてもらうために2コース実施した。

No.	開催日	講座名	展覧会解説	人数
1	5月14日	「天保期の田能村竹田」 講師：宗像健一学芸顧問	人間とは一探求する版画家 浜田知明展（長田主幹）	35
2	6月4日		飯尾寿夫展（大神学芸員）	36
3	7月2日		脇坂秀樹展（大神学芸員）	35
4	9月17日	「展覧会解説と学芸員のつ ておきの話」	日本近代洋画への道（野田学 芸員）	25
5	10月8日		常設展（大神学芸員）	26
6	11月12日		ラウル・デュフィ展（宮崎学 芸員）	22
7	1月19日		巨匠たちのパレット&絵画展 （岩尾学芸員）	23

4. 6. 美術館で音楽会

美術館をより身近に感じてもらうために、市民に自主的な演奏、発表の場を提供した。

No.	開催日	出演者	演奏内容	人数
1	7月18日	高野一男とコンパルの会	クラシックギター	81
2		笠木哲也	クラシックギター	73
3	7月25日	悦声	歌	97
4		戸上和信	フォークギター	48
5	8月1日	桂 悠紀	マリンバ	76
6		尚美café	アコーディオン	71
7	8月8日	Showers	フォークギター	62
8		橋本りさ	フルート	84
9	8月15日	新名博臣	フォークギター	64
10		Espressivo	管弦楽五重奏	76
11	8月22日	ロス・ビエルネス	ギター三重奏	93
12		みずぐるま	オカリナ	78
13	8月29日	pick-nic	マンドリン	120
14		ローズ・ウッド	リコーダー	95

4. 7. 教職員講座

教職員対象に、実技講座を実施した。

No.	開催日	時間	講座内容・講師	人数
1	7月31日	午前10時30分～午後0時30分	水墨画実技 大分県水墨画協会会長 詫間夢鳳氏	12
2	7月31日	午後2時～午後4時		6

4. 8. 子ども講座

「たのしんで・みて・まなぶ」というキャッチフレーズのもと、親子で美術館に親しんでもらうことを目的に、児童・生徒を対象とした制作・鑑賞の講座を開講した。

4. 8. 1 GW子ども講座

講座名	開催日・時間	内容等	人数
「染めてみよう!」	5月2日・3日 午前10時30分～午後3時30分 [全2回]	展覧会観覧と藍染め 講師：美術館職員 美術館 ボランティア「こもれ美」	63

4. 8. 2 夏休み子ども講座

No.	講座名	開催日・時間	内容等	人数
1	「楽しい染色」	7月22日・23日・24日 午前10時30分～午後3時30分 [全3回]	展覧会観覧と輪ゴムや割り 箸を使って模様を作る方法 での藍染 講師：美術館職員 美術館 ボランティア「こもれ美」	99
2	「美術館をさぐる」	7月27日・28日・29日 午前10時30分～午後0時30分 午後2時～午後4時 (28日は午前のみ) [全5回]	美術館見学(バックヤード ツアー)及びレポートの作 成 講師：美術館職員 美術館 ボランティア「こもれ美」	220
3	「水墨画を楽しもう」	7月30日 午前10時30分～午後0時30分 午後2時～午後4時 [全2回]	水墨画を描き、色紙掛に掛 けて飾る。 講師：大分県水墨画協会 会長 詫間夢鳳氏	32
4	「夏の音色～風鈴 に描く～」	8月4日・5日・7日 午前10時30分～午後0時30分 午後2時～午後4時 [全6回]	展覧会観覧と風鈴の絵つけ 講師：美術館職員 美術館 ボランティア「こもれ美」	344
5	「チャレンジ! そっくりアート」	8月18日・19日・20日 午前10時30分～午後3時30分 [全3回]	展覧会観覧と食べ物などのミ ニチュア制作 講師：美術館職員 美術館ボ ランティア「こもれ美」	178
6	「おもいでを飾ろう」	8月24日・25日・26日 午前10時30分～午後3時30分 [全3回]	展覧会観覧とスクラップ ブッキング(持参した写真 を貼り、飾りをつける)の 制作 講師：美術館職員 美術館 ボランティア「こもれ美」	85

4. 9. ファミリーアートクラブ

概要 美術に対する子どもの興味・関心を高めるとともに、親子で美術館に親しんでもらうことを目的として、展覧会の観覧と制作を行う講座(4回連続)を実施した。

No.	開催日・時間	観覧した展覧会	制作の内容	人数
1	10月17日 午前10時～ 午後3時30分	日本近代洋画への道 ～山岡コレクション を中心に～	アートな生活～オリジナルマイバ ックの制作 ・オリエンテーション ・ステンシル技法で布カバンにロ ゴや模様をいれる。	24
2	11月14日 午前10時～ 午後3時30分	ラウル・デュフィ展	作って健康!～布ぞうりの制作～ ・ハンガー、ロープ、フリースを 使って、布ぞうりを編む。	20
3	12月12日 午前10時～ 午後3時30分	大分大学の学生との 交流会(クリスマス 会)	季節を感じて～クリスマスリス の制作～ ・オーナメント(飾り)を作り、リ ースを飾る。	22
4	2月6日 午前10時～ 午後3時30分	巨匠たちのパレット & 絵画展～新たな魅 力と素顔～	一緒に作ろう! ～共同制作のたのしみ～ ・切り絵(各国の模様) ・修了式	21

4. 10. 美術館出前教室

所蔵作品鑑賞の機会をより多く提供するために、市内小中学校において「出前教室」を実施した。

【コース】

■郷土作家と表現技法を知るコース

日本画 福田・高山コース

- ・わが国を代表する福田平八郎、高山辰雄について知る
- ・福田、高山の作品鑑賞
- ・日本画の用具、材料の話

南画 竹田・杏雨コース

- ・南画の大家、田能村竹田、帆足杏雨について知る
- ・作品の見方について
- ・掛け軸の扱い方について

洋画 佐藤敬コース

- ・大分市出身の国際的洋画家、佐藤敬について知る
- ・佐藤敬の作品鑑賞
- ・油絵の用具、材料の話

■ミニ展覧会コース

- ・大分市出身美術家を主に、1～7点の作品を展示し、各美術家の活動の状況や作品・技法などについて理解を深めてもらう。

■対話型鑑賞コース

- ・美術館所蔵作品、または印刷物やスライドなどを使い、ひとつの作品を材料に児童生徒と先生、美術館職員が対話しながら鑑賞する。

■実施状況

No.	開催日	学校	内容	人数
1	6月24日	舞鶴小学校5年生	福田・高山コース	72
2	7月1日	賀来小中学校9年生	福田・高山コース	68
3	11月25日	横瀬小学校6年生	インフルエンザのため中止	—
4	12月3日	木佐上小学校4～6年生	ミニ展覧会コース	19
5	1月14日	長浜小学校5・6年生	福田・高山コース	72
6	1月28日	中島小学校4年生	対話型鑑賞コース	45

4. 11. 職場体験

学校からの要請に応え、監視体験、学芸員体験など職場体験の場を提供した。

No.	受入日	学校	人数
1	7月2日	大分東高校初任者研修テーマ別研修	1
2	8月6日～7日	別府羽室台高校10年教職員経験研修	1
3	8月19日	別府市立青山中学校初任者研修テーマ別研修	1
4	9月10日～11日	坂ノ市中学校	2

4. 1 2. ボランティア研修講座

大分市美術館では、積極的に教育普及活動の推進を計るため市民による「美術館ボランティア」を設置している。本講座は、本館で活躍中の美術館ボランティアを対象に知識、技能をより高めるとともに、ボランティア相互の交流を目指したものである。

時 間：午後1時30分～午後3時30分

場 所：ハイビジョンホール他

No.	開催日	内容	講師	人数
1	5月28日	仲間づくりワークショップ	美術館職員	登録者 100人
2	6月25日	夏の特別展、常設展レクチャー	美術館職員	
3	9月18日	美術館の市民サービスについて考える	各グループ	
4	11月5日	図工教育における感性育て	元小学校長 安藤由紀子氏	
5	1月21日	AEDのしくみや応急手当について学ぶ	大分市消防局	
6	3月11日	課長講話	美術振興課課長 菅章	

4. 1 3. ボランティア活動

4つのグループで、下記のような活動を行った。

(1) 資料グループの活動

毎週水曜日、金曜日 午前10時～正午

新聞記事スクラップの整理、作家別資料ファイルの作成・整理、図書整理、パンフ・チラシ整理他

(2) 解説(ギャラリートーク)グループの活動

毎週火曜日 午後1時30分～午後3時30分

- ・常設展でのギャラリートーク(毎週土曜日午後1時30分から)
- ・小中学校の団体対応や子ども講座受講者でのギャラリートーク

(3) ワークショップグループの活動

- ・隔週金曜日、午前10時～午後3時
- ・子ども講座等の指導補助

(4) 普及・運営グループの活動

- ・毎月第1・3火曜日、午前10時30分～正午
- ・講座、展覧会オープニングの受付などに向けての学習及び活動

4. 1 4 おでかけ美術鑑賞会

日頃、美術館で作品鑑賞の機会が少ない市内の福祉施設に入所中の高齢者や、施設のデイサービス利用者及びその施設周辺に居住する高齢者を対象に、美術館から施設に出向き、美術作品を鑑賞し、楽しい時間を過ごしていただくことで、高齢者福祉増進の一助とする目的で実施した。

1) 実施日及び実施施設、参加者数

10月1日(木)	百華苑	54人
10月5日(月)	アルメイダメモリアムホーム	51人
10月7日(水)	寿志の里	33人

2) 鑑賞作品

福田平八郎「紅梅」、高山辰雄「豊山豊水」・「風景」、佐藤敬「セーヌの橋」、江藤純平「石仏」

4. 1 5. 博物館実習

参加者 大分大学福祉科学部博物館講習 実習生9名

期 日 平成21年10月4日、11月14日、12月12日、平成22年2月21日
午後1時～午後5時

内 容 1 日目 「日本近代洋画への道」展について講義聴講（講師 大分大学教育福祉科学部准教授 田中修二氏）、「日本近代洋画への道」展観覧

2 日目 大分大学公開講座聴講（講師 大分大学教育福祉科学部准教授 松田聡氏）、「ラウル・デュフィ」展観覧

3 日目 ファミリー・アートクラブ参加

4 日目 美術館業務について講義聴講、岩尾秀樹展・常設展観覧

4.16. 各種刊行物

各種刊行物

美術館活動への参加、理解をより促進するため、当館の展示、調査・研究、教育普及などの活動に伴うワークシート等の刊行物を発行した。

(1) 展覧会関連

名称	規格	頁数
アート・ワンダーランド、やなせたかし展 ワークシート（小学校低学年用）	A4	4
アート・ワンダーランド、やなせたかし展 ワークシート（小学校高学年用）	A4	4
アート・ワンダーランド、やなせたかし展 ワークシート（中学生用）	A4	4
第44回大分市美術展覧会 目録	A4	10

(2) 定期刊行物等

平成20年度 大分市美術館年報	PDF ファイル	100
-----------------	----------	-----

5. 資料収集事業

5.1. 美術品等収集事業

ジャンル別収集美術品等点数(平成22年3月31日現在)

No.	ジャンル	購入	寄贈	合計	寄託
1	日本画	315 (15)	163 (6)	478 (21)	20 (-5)
2	洋画	221 (9)	135 (34)	356 (43)	3 (-1)
3	彫刻	141 (1)	9	150 (1)	1
4	工芸	47 (5)	27 (6)	74 (11)	2
5	書	31	24	55	1
6	写真	68	413	481	0
7	版画	701 (9)	72	773 (9)	2
8	水彩	6	3	9	1
9	素描	20 (1)	1	21 (1)	50
10	デザイン	0	0	0	0
11	資料	1 (1)	12 (1)	13 (2)	1
12	その他	34	11	45	0
合計		1585 (41)	870 (47)	2455 (88)	81 (-6)

() 内は21年度収集点数

平成21年度収集作品

■日本画

No.	作者	作品名	制作年	寸法(cm)	素材・技法	備考
1	幸松春浦	溪韻	1960	53.0×58.2	紙本着色	購入
2	幸松春浦	春	1961	47.0×52.8	紙本着色	購入
3	高山辰雄	暮小径	1950年代後半	40.0×58.0	紙本着色	購入
4	福田平八郎	寒天	1926頃	134.7×41.5	絹本着色	購入
5	高山辰雄	朝	1973	60.6×90.9	紙本着色	購入
6	高倉観崖	四季山水図	1937	各図143.4×53.4	絹本着色	購入
7	首藤雨郊	耶馬溪図	大正時代	145.7×56.1	絹本着色	購入
8	白須心華	鍾馗図	1917	123.6×34.0	絹本着色	購入
9	高倉観崖	春秋山水図	大正～昭和前期	各115.2×25.1	絹本着色	購入
10	今井文二	薔薇瓶	1982	65.0×45.4	紙本着色	購入
11	今井文二	花の構図	2009	41.3×53.3	紙本着色	購入
12	甲斐虎山	秋山訪隠図	1906	160.6×52.4	紙本着色	購入
13	藤米岳	竹石霜柯図	1880	112.4×30.9	紙本着色	購入
14	白須心華	秋晚帰樵図	1916	144.0×41.7	絹本着色	購入
15	福田平八郎	水蜜桃	1920頃	133.2×41.9	絹本着色	購入
16	加納雨篷	水墨山水図	不詳	44.6×67.8	紙本着色	寄贈
17	宮崎碩山	松林山水図	1921	136.6×42.0	絹本着色	寄贈
18	牧櫻山	寒牡丹	1928頃	124.2×41.7	絹本着色	寄贈
19	首藤雨郊	良寛稚児焚火図	1936	129.0×33.3	絹本着色	寄贈
20	首藤雨郊	干柿図(紅蓼賛)	不詳	125.8×32.9	紙本着色	寄贈
21	権藤種男他	色紙帳	1930頃	各27.0×24.0	紙本着色他	寄贈

■洋画

No.	作者	作品名	制作年	寸法(cm)	素材・技法	備考
22	江藤純平	秋の由布岳	1980年代	31.0×40.0	油彩・キャンバス	購入
23	権藤種男	耶馬溪	不詳	23.0×32.0	油彩・板	購入
24	飯尾寿夫	雲の上の耳と椅子(2)	2006	227.3×181.8	油彩・キャンバス	購入
25	岩尾秀樹	群像B	1958	80.3×116.7	油彩・キャンバス	購入
26	岩尾秀樹	水田と海	1998	162.1×130.3	油彩・キャンバス	購入
27	廣瀬通秀	捨てられた薔薇(アッシジ)	1989	181.8×227.3	油彩・キャンバス	購入
28	脇坂秀樹	風景	1959	80.3×116.7	油彩・キャンバス	購入
29	脇坂秀樹	建物の丘	1960	90.9×116.7	油彩・キャンバス	購入
30	谷口晶之	湧1	2007	227.0×162.0	プラチナ箔、黒箔・キャンバス	購入
31	権藤種男	桜並木	1930	45.0×58.0	油彩・キャンバス	寄贈
32	権藤種男	牡丹	1930	15.0×21.5	油彩・紙	寄贈
33	権藤種男	百合	1927	44.0×51.0	油彩・キャンバス	寄贈
34	権藤種男	鮎	1927頃	23.0×32.0	油彩・板	寄贈
35	飯尾寿夫	或る風景	1958	90.9×116.7	油彩・キャンバス	寄贈
36	飯尾寿夫	草原にてVI	1977	193.9×130.3	油彩・キャンバス	寄贈
37	飯尾寿夫	海辺のセレモニイ	1981	162.1×162.1	油彩・キャンバス	寄贈
38	岩尾秀樹	街(赤い建物)	1951	90.9×116.7	油彩・キャンバス	寄贈
39	岩尾秀樹	さかな	1958	40.9×59.5	油彩・キャンバス	寄贈
40	岩尾秀樹	並ぶ	1960	75.8×116.5	油彩・キャンバス	寄贈
41	岩尾秀樹	蠅螂	1963	97.0×130.3	油彩・キャンバス	寄贈
42	岩尾秀樹	像Ⅲ	1969	60.6×72.7	油彩・キャンバス	寄贈
43	岩尾秀樹	山羊	1990	181.8×227.3	油彩・キャンバス	寄贈
44	岩尾秀樹	鳥影残照	2002	145.5×89.4	油彩・キャンバス	寄贈
45	廣瀬通秀	みのり(B)	1949	116.7×90.9	油彩・キャンバス	寄贈
46	廣瀬通秀	颱風	1955	72.7×90.9	油彩・キャンバス	寄贈
47	廣瀬通秀	寓話	1966	227.3×181.8	油彩・キャンバス	寄贈
48	廣瀬通秀	寓話	1968	227.3×181.8	油彩・キャンバス	寄贈
49	廣瀬通秀	寓話	1971	130.3×162.1	油彩・キャンバス	寄贈
50	廣瀬通秀	モニュメント	1976	181.8×227.3	油彩・キャンバス	寄贈
51	廣瀬通秀	モニュメント	1977	181.8×227.3	油彩・キャンバス	寄贈
52	廣瀬通秀	アッシジ幻想	1985	181.8×227.3	油彩・キャンバス	寄贈
53	廣瀬通秀	ねがい	2004	193.9×162.1	油彩・キャンバス	寄贈
54	脇坂秀樹	風景	1959	80.3×116.7	油彩・キャンバス	寄贈
55	脇坂秀樹	街がある	1969	130.3×162.1	油彩・キャンバス	寄贈
56	脇坂秀樹	変容する丘	1994	112.1×162.1	油彩・キャンバス	寄贈
57	谷口昌之	艶	1974	202.0×162.0	油彩、石・キャンバス	寄贈
58	谷口昌之	白と黒'78-1	1978	160.0×130.0	油彩・キャンバス	寄贈
59	谷口昌之	萌(円錐賛歌)	1995	162.0×194.0	黒鉛、ラッカー・キャンバス	寄贈
60	仲町謙吉	仏Ⅱ	1983	193.5×258.0	油彩・キャンバス	寄贈
61	風倉匠	クロスカントリー	1991	74.0×53.0	鉛・木	寄贈
62	御手洗賢司	予感(トランプ)	1993	162.0×194.0	油彩・キャンバス	寄贈
63	権藤種男	遊鯉	不詳	65.0×80.0	油彩・キャンバス	寄贈
64	江藤哲	阿蘇の朝	不詳	45.0×33.0	油彩・キャンバス	寄贈

■彫刻

No.	作者	作品名	制作年	寸法(cm)	素材・技法	備考
65	日名子実三	兵士立像	1934以降	13.2×18.3 高38.6	ブロンズ	購入

■工芸

No.	作者	作品名	制作年	寸法(cm)	素材・技法	備考
66	河合誓徳	行雲	1989頃	39.5×33.5× 19.0	磁器	購入
67	河合誓徳	花影Ⅱ	1987	13.0×38.0× 29.0	磁器	購入
68	生野徳三	白竹の籠 湊	1984	42.0×45.0× 32.0	竹、籐、ステンレス	購入
69	生野祥雲齋	尺八切花入	1946頃	高31.4 径7.8	竹	購入
70	相武常雄	花衣	1984	77.5×61.0× 38.5	銅、金泥	購入
71	生野徳三	無双	1979	64.0×58.0× 55.0	竹、籐	寄贈
72	生野徳三	白竹の籠 萌芽	1981	47.0×40.0× 35.0	竹、籐	寄贈
73	晦庵工房 (本田卿雲 齋主宰)	鉄鉢盛籠	1975～85	高9.5 径30.0	竹	寄贈
74	晦庵工房 (本田卿雲 齋主宰)	盛籠	1975～85	高11.0 径33.0	竹	寄贈
75	相武常雄	トルソ1	1995	161.5×95.0 奥 行41.0	銅	寄贈
76	相武常雄	トルソ2	1995	95.0×161.5 奥 行42.0	銅	寄贈

■版画

No.	作者	作品名	制作年	サイズ(cm)	素材・技法	備考
77	佐藤亜土	WZ1	不詳	62.0×42.0	紙・シルクスクリーン	購入
78	佐藤亜土	南仏1	1975	41.5×28.0	紙・シルクスクリーン	購入
79	篠原有司男	花魁	2009	80.0×80.0	デジタルプリント・キャン バス	購入
80	篠原有司男	女の祭	2009	67.0×140.0	デジタルプリント・キャン バス	購入
81	篠原有司男	前衛の道 ポスター	1968	78.7×51.7	紙・シルクスクリーン	購入
82	篠原有司男	前衛の道 ポスター	1968	73.0×51.5	紙・シルクスクリーン	購入
83	高山辰雄	宵	不詳	51.4×36.0	木版画	購入
84	高山辰雄	雲とぶ日	1988	48.3×36.8	リトグラフ	購入
85	高山辰雄	月晨	不詳	20.5×47.0	木版画	購入

■素描

No.	作者	作品名	制作年	サイズ(cm)	素材・技法	備考
86	佐藤敬	挿絵原画(挿絵70枚、イラ ストカット10枚)	1950頃	12.0×17.0他	紙・インク他	購入

■資料

No.	作者	作品名	制作年	寸法(cm)	素材・技法	備考
87	福田平八郎他	福田平八郎関係資料(書状 48通、ハガキ16枚他)	1936他	22.2×17.7他	紙・インク他	購入
88	本廣禮他	本廣禮関係資料(制作余 禄1冊・写真12枚・ハガキ 22枚他)	1937他	32.3×22.0他	紙・インク他	寄贈

5. 2. 平成21年度作品貸出状況

件数	No.	作家名	作品名	展覧会名	会場	会期
1	1	佐藤敬	雪	日本の美術館名品展	東京都美術館	平成21年4月25日～7月5日
	2	福田平八郎	鮎			
2	3	正井和行	魷	月影さやかに一静かなる心象・没後10年 正井和行展	明石市立文化博物館	平成21年5月6日～6月30日
	4	正井和行	発掘			
	5	正井和行	憶昔			
3	6	上野未央	05創（いのち）－Ⅲ	光「無償の愛」を謳う上野未央日本画展	日本クラブギャラリー(N.Y.)	平成21年6月2日～7月30日
4	7	上村淳之	月の水辺	上村松園・松篁・淳之展	松伯美術館	平成21年10月17日～11月29日
5	8	石松健男	赤瀬川原平と升沢金平有楽町ピアホール	前衛のみやぎ	宮城県美術館	平成21年6月20日～8月16日
	9	石松健男	銀座の升沢金平			
	10	石松健男	銀座の吉村益信と升沢金平1			
	11	石松健男	銀座の升沢金平と通行人の婦人			
	12	石松健男	銀座の吉村益信と升沢金平2			
	13	石松健男	銀座の吉村益信と升沢金平3			
	14	石松健男	火を放つ吉野辰海作品「Danger」1			
	15	石松健男	日比谷画廊での記念撮影			
	16	石松健男	Dangerに火をつける吉野辰海1			
	17	石松健男	Dangerに火をつける吉野辰海2			
6	18	佐藤敬	南京光華門	近代の東アジアイメージー日本近代美術はどうアジアを描いてきたか	豊田市美術館	平成21年9月5日～平成22年1月15日
	19	佐藤敬	安陸戦址			
7	20	高山辰雄	湯泉	九州ゆかりの日本画家たち展	熊本市現代美術館	平成21年10月10日～12月6日
	21	高山辰雄	燈			
	22	高山辰雄	少女			
	23	高山辰雄	丘の上			
	24	高山辰雄	椅子に			
	25	福田平八郎	白梅眼白			
	26	福田平八郎	鯉			
27	福田平八郎	紅葉と虹				
8	28	内井昭蔵設計事務所	大分市美術館模型	「内井昭蔵の思想と建築 自然の秩序を建築に」展	世田谷美術館	平成21年12月12日～平成22年2月28日
9	29	川端康成	消息	此君亭公開	此君亭（生野祥雲斎旧宅）	平成21年11月27日～30日

5. 3. 所蔵図書

備品図書 4,564 冊（～平成 22 年 3 月 31 日現在）

5. 4. 所蔵映像資料

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| (1) 高山辰雄 | (26 分) VHS |
| (2) 日本の巨匠シリーズ 日本画家 中島 千波 | (26 分) VHS |
| (3) 版画の技法と表現 木版画 | (23 分 23 秒) VHS |
| (4) ネオ・ダダビデオ R1 | (70 分 26 秒) D2 |
| (5) ネオ・ダダビデオ R2 | (71 分 1 秒) D2 |
| (6) ネオ・ダダ展イベントビデオ | (44 分 30 秒) D2 |
| (7) 世界・美の旅 14 ゴヤ | (30 分) VHS |
| (8) 世界・美の旅 10 ピカソ | (30 分) VHS |

6. 管理運営

6. 1. 職員数

年度別推移

	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
美術館美術振興課						16 (1)	16 (1)	16 (1)	16 (1)
美術館管理課	7	7	6	7(1)	7(1)	-	-	-	-
アートプラザ	7(3)	7(3)	7(4)	7(4)	7(4)	7 (4)	指定管理者	指定管理者	指定管理者
美術館学芸課	11	11	11	10	10	-	-	-	-
計	25(3)	25(3)	24(4)	24(5)	24 (5)	23 (5)	16(1)	16(1)	16(1)

(平成21年4月1日現在) () は非常勤嘱託職員内数

美術館管理課及び美術館学芸課は平成10年12月1日設置。平成19年4月1日から機構改革により1課3班(グループ)・美術館美術振興課とした。

平成21年度

職名	次長	課長	主幹	主査、 専門員	主任	主事	指導 主事	嘱託	合計
館長・課長・顧問	2							1	3
総務担当班			1	1	1	1			4
学芸担当班			1	1	3				5
広報普及担当班			1		1		2		4

6. 2. 事務分掌

課	班(グループ)	事務分掌
美術館美術振興課	総務担当班	(1) 美術館の施設及び設備の維持管理並びに使用許可に関すること。 (2) アートプラザの指定管理者に対する指導及び助言並びにモニタリングに関すること。
	学芸担当班	(1) 美術品及び美術に関する資料(以下「美術品等」という。)の収集、保管及び展示に関すること。 (2) 美術に関する専門的な調査及び研究に関すること。 (3) 寄託及び寄贈に係る美術品等の選定に関すること。 (4) 美術に関する案内書、解説書、目録等の刊行に関すること。 (5) 美術に関する展覧会、講演会、研究会等の開催及び奨励に関すること。
	広報普及担当班	(6) 他の美術館等との連絡、協力、情報の交換及び美術品等の相互貸借等に関すること。 (7) 美術の教育及び普及に関すること。 (8) アートプラザの60年代ホール及び磯崎新建築展示室資料等の保管及び展示に関すること。

6. 3. 利用状況

(1) 利用者内訳

年度	展覧会			研修室 利用者(B)	フリーゾーン					美術館 展示施設等の 利用者の合計 (G)= A+B+F	レスト ラン(H)	美術館 施設利用 者総計 (I)= G+H	チャイル ドハウス (J)	美術館 出前教室 (K)	美術館 全体の再 利用者計 (L)=I +J+K			
	常設 展	特別 展	小計 (A)		ハイビジョンホール				ミュー ジウム ショップ (D)							その他 (図書 コー ナー、 ティ ーラ ウン ジ 等) (E)	フリー ゾーン 中計 (F)=C+ D+E	
					館事業 講座	特別展 関連講 座	その 他	小計 (C)										
10	45,226	43,556	88,782	263					4,337		4,337	93,382	10,027	103,409			103,409	
11	77,837	79,900	157,737	5,085	1,439				1,439	11,048		12,487	175,309	32,040	207,349	143	587	208,079
12	66,956	81,684	148,640	3,532	1,982	257	1,600	3,839	10,430		14,269	166,441	23,672	190,113	120	791	191,024	
13	49,964	67,206	117,170	6,806	1,621	269	2,000	3,890	8,632		12,522	136,498	21,120	157,618	194	1,633	159,445	
14	33,226	86,488	119,714	5,936	1,563	241	2,000	3,804	4,378		8,182	133,832	14,861	148,693	1,465	1,188	151,346	
15	40,774	70,660	111,434	8,073	2,026	17,043	933	20,002	10,421		30,423	149,930	8,421	158,351	1,078	1,566	160,995	
16	33,492	29,705	63,197	7,885	5,056	561	2,209	7,826	3,981	14,121	25,928	97,010	43,198	140,208	1,020	1,269	142,497	
17	35,594	32,218	67,812	8,116	5,822	1,848	1,881	9,551	6,006	23,779	39,336	115,264	41,760	157,024	414	566	158,004	
18	41,965	56,163	98,128	10,359	4,577	1,375	2,420	8,372	8,391	33,541	50,304	158,791	46,398	205,189	413	800	206,402	
19	39,688	55,723	95,411	8,935	2,526	563	1,874	4,963	7,543	28,928	41,434	145,780	46,428	192,208	243	644	193,095	
20	41,487	59,031	100,518	9,371	2,925	509	1,781	5,215	8,124	35,694	49,033	158,922	45,643	204,565	309	593	205,467	
21	43,838	77,173	121,011	9,674	1,604	647	1,898	4,149	10,353	26,762	41,264	171,949	49,431	221,380	642	326	222,348	
累計	550,047	739,507	1,289,554	84,035	31,141	23,313	18,596	73,050	93,644	162,825	329,519	1,703,108	382,999	2,086,107	6,041	9,963	2,102,111	

(2) 企画展(特別展)観覧者

展覧会名	開催期間	日数	観覧者	一日平均
人間とは 一探求する版画家 浜田知明	平成21年 4月24日～ 5月17日	22	2,522	114
郷土在住作家展Ⅲ 飯尾寿夫展	平成21年 5月20日～ 6月10日	20	1,845	92
郷土在住作家展Ⅲ 脇坂秀樹展	平成21年 6月13日～ 7月 5日	20	2,204	110
みんな大好きアンパンマン やなせたかしの世界	平成21年 7月10日～ 8月31日	52	42,488	817
日本近代洋画への道 —山岡コレクションを中心に—	平成21年 9月5日～10月18日	40	6,134	153
ラウル・デュフィ展	平成21年10月23日～12月13日	47	6,720	142
第58回高文連 美術・書道・写真中央展	平成21年12月17日～12月25日	8	1,732	216
巨匠たちのパレット&絵画展 —新たな魅力と素顔—	平成22年 1月 5日～ 2月21日	43	7,163	166
第44回 市美展 [公募展]	平成22年 3月 5日～ 3月28日	21	6,365	303

(3) 年度別展覧会開催日数

年度	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
常設展	307	300	309	300	306	304	301	314	321	321	321
特別展	247	242	267	247	251	160	191	222	251	287	273

6. 4. 建築設備概要

建物概要	所在地	大分市大字上野 865 番地
	設計	内井昭蔵建築設計事務所
建築概要	監理	大分市土木建築部建築課、内井昭蔵建築設計事務所
	施工	建築: 清水建設・佐伯建設特定建設工事共同企業体 電気: 東芝プラント建設・大徳電業特定建設工事共同企業体 空調: ダイダン・但馬設備工業特定建設工事共同企業体 給排水衛生: 富士輝工業株式会社 昇降機: 株式会社東芝 都市ガス: 大分瓦斯株式会社
	工事期間	平成 8 年 12 月 18 日～平成 10 年 9 月 30 日
	総事業費	7, 090, 129 千円
	敷地面積	129, 837 m ² (上野丘公園全体)
	建築面積	美術館 6, 570. 65 m ² 屋外便所 52. 86 m ² 計 6, 623. 51 m ²
	延床面積	美術館 9, 036. 48 m ² 屋外便所 48. 52 m ² 計 9, 085. 00 m ²
	構造	鉄筋コンクリート造・一部鉄骨鉄筋コンクリート造 地上 2 階建
	屋根	外断熱アスファルト防水押えコンクリート、鉛破覆銅板立ハゼ葺・一部瓦棒葺、アルミダイキャスト
	外壁	珪藻土搔落し・洗い出し、金ゴテ押え、鉛破覆銅板平葺・菱葺、せつ器質タイル張、アルミダイキャスト、アルミ押出しブパネル、諫早石ソフビシヤン
電気設備	電力引込	3 相 3 線 6.6KV 60HZ 1 回線受電地中引込
	受変電	屋内キュービクル式受配電盤 設備受量 1800KVA
	非常用	発電機 1 台 ガスタービン 375KVA 出力 610PS 蓄電池(非常照明用)1 組 無停電電源装置 1 式
弱電設備	設備内容	電話設備、放送設備、インターホン、難聴者設備(フラットループアンテナ)、盲人誘導装置(コントロールボックス、スピーカ 6 か所)、電気時計装置、ローカルアンプワゴン、研修室 AV 装置(ビデオプロジェクター、電動昇降スクリーンほか)
空調設備	熱電	直焚吸収冷温水機 2 空冷スクルーヒートポンプチラー1 冷却塔 2
	空調機	4 管式 AHU 単一ダクト方式(24 時間系統)、2 管式 AHU 単一ダクト方式(一般系統)、酸アルカリ除去フィルター装置、パネルヒーター、パッケージ型空調機、ファンコイルユニット
	換気	給気送風機、排気送風機、空調換気扇、オゾン脱臭機
給排水	給水	圧力方式(一部直接給水)
衛生設備	排水	構内: 分流方式 構外: 合流方式(公共下水道)

昇降機 乗用エレベータ 油圧 2 段速度制御方式 車椅子仕様 定員 13 名 / 1 基、
油温油圧補償制御方式 車椅子仕様 定員 11 名 / 2 基
荷物用エレベータ 油圧 2 段速度制御方式 積載量 2,500kg / 1 基
テーブルリフター リフト 1.58m テーブル 1.5m × 3m 荷重 3,000kg / 2 基

6.5. フロア別面積

建築面積（単位：㎡）

美術館	屋外便所棟	合計
6,570.65	52.86	6,623.51

延床面積（単位：㎡）

企画展示棟	常設展示棟	合計	屋外便所棟	総計
5,841.93	3,194.55	9,036.48	48.52	9,085.00

部門別面積

部門	面積（単位：㎡）	構成比率	室名	面積（単位：㎡）
展示部門	2,097.81	23.2	企画展示室1	428.88
			企画展示室2	429.25
			常設展示室1	495.45
			常設展示室2	237.24
			常設展示室3	195.74
			常設展示室4	79.72
			展示ロビーほか	231.53
教育普及部門	494.68	5.5	ハイビジョンホール	120.68
			ハイビジョンブース	34.88
			ハイビジョン静止画工房	18.24
			研修室	169.94
			図書コーナー	101.77
			ボランティア室	49.17
サービス部門	2,085.93	23.1	ミュージアムショップ	126.10
			エントランスホール	299.94
			レストラン	322.84
			救護室	8.61
			授乳室	19.08
			ティーラウンジ・ロビー他	1,309.36
収蔵部門	1,410.13	15.6	収蔵庫1	320.05
			収蔵庫2	229.45
			収蔵庫3	180.66
			収蔵庫4	109.21
			荷解室1・2、荷卸室ほか	570.76
管理部門	593.30	6.6	館長室	32.18
			事務学芸員室	242.93
			会議室1・2	110.79
			中央監視室	54.01
			応接室ほか	153.39
その他	2,354.63	26.0	機械室関係	944.92
			廊下・階段・ELV等	897.27
			倉庫・WC等	512.44
合計	9,036.48	100.0		

6.6. 決算

(単位:千円)

項目	年度	平成21年度	
		美術館	アートプラザ
人件費		128,202 (職員16名分 ※嘱託1名分含む)	
管理費	委託料	81,424	77,356
	光熱水費	56,583	
	その他	41,855	
	小計	179,862	77,356
人件費+管理費		308,064	77,356
事業費	展覧会事業	49,397	
	教育普及事業	1,913	
	資料関係費	39,806	
	その他	4,012	197
	小計	95,128	197
合計		403,192	77,553
総計		480,745	

6.7. 利用案内

利用時間・料金

開館時間 午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）

休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日）。但し、毎月第1月曜日は開館しその翌日の火曜日が休館。年末年始（12月28日～1月4日）。

観覧料 常設展

区分	個人	団体（20人以上）
一般	300円	250円
高・大生	200円	150円

特別展

特別展料金はその都度決定する。

施設使用料

室名	使用料
研修室	1時間につき 1,050円

注 冷暖房期間中は、上表により算定した使用料の4割に相当する額を加算する。

交通案内

バス JR大分駅から大分バス 大分市美術館・駅裏循環 [大分市美術館] 下車

タクシー JR大分駅から約10分

車 大分自動車道／大分I.C. から約10分

6.8. 条例

http://www3.city.oita.oita.jp/reiki/reiki_honbun/ag50206181.html

6.9. 条例施行規則

http://www3.city.oita.oita.jp/reiki/reiki_honbun/ag50206191.html

7. アートプラザ

7. 1. 運営方針

ゆとりと豊かさがある生涯学習生活をめざしていく中で、精神的なうるおいと安らぎのある市民生活を実現するため、新しい文化の創造と発信が積極的に行われる場として運営していく。そのために、市民のニーズと活用レベルに応じた対応や、気軽に活用できるためのシステムづくりに力を入れている。さらに、大分市出身の世界的建築家磯崎新氏建築作品の模型や資料の展示を行い、建築理念や思想などを紹介していく。

7. 2. 施設概要

(1) 沿革

昭和 41(1966)年 5月	大分県立大分図書館(磯崎新氏設計)として竣工
昭和 43(1968)年 4月	建築年鑑賞受賞
平成 6(1994)年 8月	大分県立大分図書館新築移転のため閉館
平成 7(1995)年 4月	大分市が無償貸与を受ける
平成 7(1995)年 11月	整備工事設計委託契約締結(磯崎新氏設計)
平成 8(1996)年 9月	整備工事契約締結
平成 9(1997)年 9月	アートプラザ条例制定
平成 9(1997)年 10月	アートプラザ竣工
平成 10(1998)年 2月	アートプラザ開館
平成 11(1999)年 3月	建物の譲与を受ける
平成 12(2000)年 1月	大分市が土地取得
平成 19(2007)年 4月	管理運営に指定管理者制度を導入

(2) 概要

敷地面積	3,023.4 m ²	建築面積	1,599.945 m ²
延床面積	4,081.551 m ²	構造	鉄筋コンクリート造
			地下1階地上3階

7. 3. 業務内容

(1) 貸館業務

市民ギャラリーA・B(1F)

主として個人やグループによる絵画・書・写真などの創作活動の発表の場として利用できる。また、A・Bを同時使用することもできる。

アートホール(2F)

文化・芸術関係団体の展示会場として、また、各種文化講演会や催事の会場として利用できる。

研修室 (2F)

芸術・文化に関する講座や、一般の会議、研修会にも利用できる。

実技室 (2F)

全紙が充分広げられる作業机・版画制作に必要なプレス機・イーゼル・水道設備も整っている。油絵・日本画・書道・工芸等々、各種制作活動や実技研修に利用できる。

(2) 磯崎新建築資料展示業務 (3F・磯崎新建築展示室ほか)

大分市出身の磯崎新は日本が世界に誇る建築家であり、グローバルに活躍している。彼はその前衛的な作品によってのみならず、建築家としては異例な質と量の著書を通じて、世界の建築思潮に大きな影響を与えてきた。

磯崎建築の初期の傑作である当館(旧大分県立大分図書館)の本展示は、彼の作品・言説両面にわたる巨大な足跡の記録である。

特集1

磯崎新 廃墟からの出発

平成 21 年 3 月 21 日(土)～平成 22 年 7 月 18 日(日)

特集 1

平成 20 年度から引き続き、磯崎新 廃墟からの出発と題し、廃墟を創造の源泉と位置づけた初期から、プラトン立体、円柱などを用いて、近代建築からの脱却を試みた時期を経て、スタイルに固執せず海外へと展開させた近年までの活動を、模型、ドローイング、言説パネル等により紹介した。

【建築模型出品目録】 (特集 1)

展示室 1 都市の姿 新宿計画

新宿計画

展示室 2 廃墟からの出発 空中都市

空中都市、大分県立中央図書館+大分県医師会館

展示室 3 近代建築批判 建築の解体

群馬県立近代美術館、北九州市立美術館+アネックス、北九州市立中央図書館、東京都新都庁舎計画

展示室 4 近代建築批判 引用とメタフォア(暗喩)

水戸芸術館、つくばセンタービル、ハラ・ミュージアム・アーク、京都コンサートホール、奈良市民ホール

展示室 5 反スタイル 海外へ

ロサンゼルス現代美術館、サン・ジョルディ・スポーツ・パレス、パラフォルスレクリエーション施設、フェニックス市行政センター計画

60' s ホール 反スタイル 多文化への展開

シュトゥットガルト現代美術館、ミュンヘン近代美術館、ブルックリン美術館、ラ・コルーニャ人間科学館、ティーム・ディズニー・ビルディング

展示室 6～9

建築家の旅をテーマに、“スクラップブック「旅」”と題し、氏がイタリア、アメリカ、中国などで描いたスケッチや、撮影した写真などを展示。

7.4. 現代美術作品- 大分市美術館所蔵- 常設展示

1960年代に国内外で活動した芸術家たちの作品を中心に大分市美術館の企画により、60年代ホールにおいて展示を行っている。展示作品は大分市美術館所蔵である。

【展示作品について】

吉村益信らにより結成されたネオ・ダダイズム・オルガナイザー。反抗を出発点としたネオ・ダダ作家達の1960年代初期及び、その後の活動を平面作品等により紹介した。

会期：平成21年3月21日(土)～平成22年7月18日(日) 場所：60'sホール

No.	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材技法
1	石松 健男	火を放つ吉野辰海 作品「Danger」	1960	103×67	フォトゼログラフィ
2	小林 正徳	銀座画廊前の作家たち	1960	26.3×40.3	Kプリント
3	石黒 健治	日比谷で談笑する作家たち	1960	49.2×38.0	ゼラチンシルバープリント
4	吉村 益信	VOID 6	1962/96	90.0×60.0	石膏、板
5	田辺三太郎	DRAWING I ①「不調和音階」のための習作(全体図)	1961/95	76.2×56.0	鉛筆、紙
6	風倉 匠	アウグスチヌスの時間	1969	294×132.6	油彩・キャンバス
7	豊島壮六	No.37- W	1970	71.1×50.8	アルミ合金
8	風倉 匠	ピアノ狂詩曲 No. 3	1993	183.5×277.5	鉛、ピアノ、ウレタン樹脂
9	吉村 益信	群盲撫象	1972	53.5×108.0	シルクスクリーン
10	田中信太郎	ピアニシモ	1979	33.4×33.4	油彩、キャンバス
11	赤瀬川原平	トマソン黙示録 真空の踊り場・四谷階段	1988	36.4×51.5	オフセット
12	篠原有司男	モーターサイクル・ヴァン・ゴッホ	1991	210×240×90	木・カードボード・アクリル他
13	吉野 辰海	十字行	1989-92	高 454.0	強化プラスチック

7.5. 利用案内

利用時間・料金等

開館時間 午前9時から午後10時まで（ただし、3階磯崎新建築展示室は午後6時まで）

休館日 年末年始（12月28日～1月3日）

使用料

	4月・5月・10月・11月料金		冷暖房期間中料金 (左記の月を除く期間)
	アートホール (427㎡)	1日(9時～22時)	9,500円
	1時間	1,150円	1,610円
研修室(79㎡)	1時間	690円	960円
実技室(77㎡)	1時間	210円	290円
市民ギャラリー(338㎡)	1日(9時～22時)	7,500円	10,500円
A室(236㎡)	1日(9時～22時)	5,250円	7,350円
B室(102㎡)	1日(9時～22時)	2,250円	3,150円
磯崎新 建築展示室	観覧無料		

- 受付方法
- 使用日の6カ月前から受付を行う。
 - ただし、芸術・文化活動以外の会議や研修などは3カ月前から受付を行う。
 - また、5日以上連続して行う展覧会については、12カ月前から受付を行う。
 - 受付、空き情報の問い合わせは、年末年始の休館日を除く日の午前9時から午後10時まで。
 - 電話等による仮押えは不可。
 - 使用料は、使用許可の際に事務室の受付窓口で納入。
 - 大分市公共施設案内・予約システムによる利用は可。

- 交通案内
- ・JR大分駅から徒歩10分
 - ・バス 大分合同新聞社前下車
 - ・車 大分自動車道／大分I.C.から15分

名称・所在地

アートプラザ
〒870-0046 大分市荷揚町3番31号
TEL 097-538-5000 FAX 097-538-5060

7.6. 利用状況

(単位：人)

	1F		2F				3F	総利用者数
	ギャラリーA	ギャラリーB	アートホール	研修室	実技室	60'sホール	磯崎新建築 模型展	
10年度	17,209	14,532	22,398	8,370	1,937	3,607	7,498	75,551
11年度	12,733	10,707	17,600	4,326	3,280	1,663	5,398	55,707
12年度	19,595	15,979	49,831	3,890	3,450	1,454	7,499	101,698
13年度	16,974	11,674	25,298	5,042	4,329	13,111	7,046	83,474
14年度	20,234	15,972	43,515	5,774	4,180	14,510	6,661	110,846
15年度	31,332	24,909	34,215	6,267	4,587	10,126	4,871	116,307
16年度	36,298	31,276	42,928	9,064	4,505	6,730	6,287	137,088
17年度	35,518	35,125	36,161	9,138	3,846	4,676	6,829	131,293
18年度	37,802	32,415	38,629	8,814	4,254	2,655	13,592	138,162
19年度	33,226	25,225	44,118	8,535	4,905	3,514	7,491	127,014
20年度	44,783	37,602	48,644	10,220	5,514	9,320	17,253	173,336
21年度	33,695	29,240	40,240	10,257	4,861	33,148	18,949	170,390

7.7. アートプラザ条例

http://www3.city.oita.oita.jp/reiki/reiki_honbun/aq50206221.html

7.8. アートプラザ条例施行規則

http://www3.city.oita.oita.jp/reiki/reiki_honbun/aq50206231.html